

# 吉備国際大学



## 中期目標・中期計画書

(平成 28 年度～平成 30 年度)

# キラリと光る吉備国際大学を目指して

## 吉備国際大学中期目標・中期計画

(平成28年4月1日～平成31年3月31日)

学長 眞山 滋 志

吉備国際大学は、開学以来、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する。」という建学の理念のもと、地域社会の中心となる大学として「豊かな人間性と確かな実践力を育みグローバルに活躍できるスペシャリストの養成」を目指した教育研究を通じて、多くの人材を社会に輩出して参りました。

本学は、今後も一層の発展を展望しております中、近年の18歳人口の減少という大学にとって非常に厳しい時代を迎えている現状も深く受け止めております。2015年には私立大学の約4割が入学定員割れを起こすという状況となっておりますが、この様な現状に屈することなく、むしろこれを飛躍への絶好の機会と捉え歩まねばならないと思っております。

このたび、本学は、未来を見据えて“キラリと光る吉備国際大学”構築を果たすため「中期目標・中期計画」を策定いたしました。キラリと光る大学とは、何よりもそこに学ぶ“一人ひとりの学生”が光り輝いていることに他なりません。それ故、今回の「中期目標・中期計画」は、各研究科・学部・学科、また、大学としての「教育力」の充実に最も重点を置いたものとなっております。

「中期目標・中期計画」は、策定することが目的ではなく、進捗状況を検証しつつ、掲げた目標を達成することこそが目的です。教職員全員が策定の意義、目標と計画についての確固とした意識を共有し、全学一致してこれに取り組むことが必要です。

今こそ教育の原点に立ち返り、学生一人ひとりが有為な人材として大きく成長できるオンリーワンの教育によって、世界へ飛翔する“キラリと光る吉備国際大学”の構築に、全力で取り組んで参ります。

吉備国際大学中期目標・中期計画におけるビジョン

吉備国際大学	吉備から世界へ！ 未来を豊かにするあなたの実践力を育む
	<p>&lt;基本目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の理念：「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する。」</li> <li>・教育目標：「豊かな人間性と確かな実践力を育みグローバルに活躍できるスペシャリストの養成」</li> <li>・指導方針(吉備アプローチ)：「懇切丁寧で学生一人ひとりに応じた、基礎・基本を重視して創意工夫を凝らした指導」</li> </ul> <p>豊かな人間性と確かな実践力を育み、グローバルに活躍できるスペシャリストを養成します。</p>

学部・学科

社会科学部	<p>現代社会の課題に挑む！</p> <p>社会現象のメカニズム、人々の生活課題、様々な社会問題の探求を通して、現代社会の仕組みを理解し、社会に貢献できる人材を養成します。</p>
経営社会学科	<p>時代を生き抜く経営学と社会学を学ぶ！</p> <p>経営・社会・環境について学び、協調性と創造性を磨き、グローバル化への対応能力を培い、持続可能な社会を担う人材を養成します。</p>
スポーツ社会学科	<p>スポーツに対するいろいろな興味を満たす！</p> <p>スポーツの指導、組織化、運営に関する知識と技術を身につけ、スポーツ関連分野でリーダーシップを発揮できる人材を養成します。</p>
保健医療福祉学部	<p>保健医療福祉のスペシャリスト養成！</p> <p>次世代を担う質の高い保健医療福祉の専門家を養成します。</p>
看護学科	<p>あたたかな心と看護の確かな知識と技術を育む！</p> <p>あたたかな「看護の心」と確かな知識・技術を身につけた看護専門職を養成し、保健医療の発展に貢献します。</p>
理学療法学科	<p>私立大学の「老舗」理学療法士養成課程！</p> <p>私立大学の老舗理学療法士養成課程としての「教育の質」と「社会的信頼」を追求し、“プロフェッショナル”な理学療法士を養成します。</p>
作業療法学科	<p>作業療法士としての輝かしい未来を拓く！</p> <p>作業療法の基礎から最先端の理論と実践を教授し、作業療法士としての輝かしい未来を拓きます。</p>
社会福祉学科	<p>福祉の学びを自分と他者のより良い人生を築く力に！</p> <p>福祉教育を通じた一人ひとりの個性を輝かせる人間力の養成と寄り添う力・生きる力の養成を目指します。</p>
心理学部	<p>「こころ」を科学し、心理学マインドを身につける！</p> <p>「こころ」についての理解を深め、よりよい人間関係を築く力を養成します。</p>
心理学科	<p>脳を知り、心を知り、心理学を楽しむ！</p> <p>心理学の基礎から臨床まで、オーソドックスな教育をベースに、一人ひとりの長所を伸ばし、将来の可能性を広げます。</p>
子ども発達教育学科	<p>子どもの心理・子育ての心理に精通した子育てのスペシャリストを養成！</p> <p>心理学をベースとした保育・教育・児童家庭福祉の学びと、大学周辺の里山を活用した子どもたちとのふれあい体験学習を通して、子育てのスペシャリスト(保育者・教育者)を養成します。</p>
アニメーション文化学部	<p>地域で、アニメの夢を実現しよう！</p>
アニメーション文化学科	<p>アニメーションの制作・文化・プロデュースをトータルに学び、映像文化の新たな担い手を養成します。</p>

地域創成農学部	農と食と地域の未来を拓く ～新たな挑戦～
地域創成農学科	淡路島から始まる、あなたと地域の未来。ここにしかない農・食の学びで地域創成のリーダーを養成します。
外国語学部	日本の文化・歴史に関する知識と英語力を身につけ、世界へ飛躍しよう！
外国学科	ジャパNSTAディ・英語コミュニケーション力・海外留学をベースに一人ひとりの力を開発し、グローバル社会で活躍できる人材を養成します。
通信教育部 心理学部	自己の可能性を信じ、チャレンジするあなたへ！「仕事・家庭」と「学び」を両立させ、子育てのスペシャリストをめざす！
子ども発達教育学科	心理学をベースとした保育・教育・児童家庭福祉の学びで、子どもの心理・子育ての心理に精通した子育てのスペシャリスト(保育者・教育者)を養成します。

## 大学院

社会学研究科	現代社会の課題に知的チャレンジで立ち向かう！ 社会の変革をとらえ、時代が要請する課題に対して知的チャレンジを続ける、グローバル社会で活躍する人材を養成します。
保健科学研究科	保健科学の専門領域の疑問を研究で解く！ 優れた研究環境と細やかな研究指導体制によって、保健科学領域をリードする教育研究者と専門職を養成します。
社会福祉学研究科 修士課程	福祉の学びで希望社会への道を拓く！ 生活者の目線から人間性の復権と格差・排除の克服の可能性を探求し、福祉・ケアのリーダーを養成します。
心理学研究科 心理学専攻	認識 — この時空を超えた壮大な心のロマンに迫る！ 心理的な事実に対して客観的な方法を用いて論理的な解釈・予測・推論のできる心理の専門家を養成します。
心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	Kibi Mind で人々の精神的健康を支える！ 臨床心理学領域及びその関連領域の専門性と技能を持ち、広い視点を有する実践家を養成します。
文化財保存修復学研究科 修士課程	世界共通の遺産「文化財」を守る！ 文化財の保存や修復に関する科学的知識や高度な技術を有し、文化財の保存や修復に貢献できる人材を養成します。
(通信制) 社会福祉学研究科 修士課程	福祉の学びで希望社会への道を拓く！ 福祉関連領域での現場経験を活かして理論、研究法、専門的知見を学び、経験知と科学的論拠によって課題解決に取り組む、福祉・ケアのリーダーを養成します。
(通信制) 連合国際協力研究科 修士課程	国際協力の探求 — 21世紀国際社会の多様な課題解決のために！ 一人ひとりの問題意識を大切に教育研究を通じて、国際社会の近未来を担う高度国際協力人材を養成します。
(通信制) 保健科学研究科 理学療法専攻 修士課程	リサーチマインド&メソッド 臨床における疑問を研究で解く！ 臨床実践や業務と両立できる全国唯一の通信制大学院として、高度な臨床研究能力を持つ理学療法士を養成します。
(通信制) 保健科学研究科 作業療法専攻 修士課程	理論に基づいた作業療法実践！ 臨床実践や業務と両立できる通信制大学院教育を提供し、指導的役割を担う高度専門職としての作業療法士を養成します。
(通信制) 知的財産学研究科 修士課程	日本初！通信制による知的財産学の大学院 知的創造サイクルに精通した知的財産専門人材、紛争処理や国際取引を把握できる能力を有する人材を養成します。
(通信制) 心理学研究科 博士(後期)課程	日本唯一。通信制大学院で博士(心理学)の学位取得！ 客観的かつ科学的な方法論に基づき、意識・行動を対象とした研究活動を自立的に行うことのできる能力と深い学識をもった専門家を養成します。

# 目 次

まえがき

ビジョン一覧

吉備国際大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

## <学部・学科>

社会科学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
経営社会学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
スポーツ社会学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
保健医療福祉学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
看護学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
理学療法学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
作業療法学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
社会福祉学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
心理学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
心理学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
子ども発達教育学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
アニメーション文化学部 アニメーション文化学科・・・・・・・・	21
地域創成農学部 地域創成農学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23
外国語学部 外国学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26
通信教育部 心理学部 子ども発達教育学科・・・・・・・・・・・・	28

## <大学院>

社会学研究科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
保健科学研究科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
社会福祉学研究科 修士課程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
心理学研究科 心理学専攻・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程・・・・・・・・・・・・	33
文化財保存修復学研究科 修士課程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34
(通信制) 社会福祉学研究科 修士課程・・・・・・・・・・・・	35
(通信制) 連合国際協力研究科 修士課程・・・・・・・・・・・・	36
(通信制) 保健科学研究科 理学療法専攻 修士課程・・・・・・・・	37
(通信制) 保健科学研究科 作業療法専攻 修士課程・・・・・・・・	38
(通信制) 知的財産学研究科 修士課程・・・・・・・・・・・・	39
(通信制) 心理学研究科 博士(後期)課程・・・・・・・・・・・・	41

<p>ビジョン</p>	<p>吉備から世界へ！未来を豊かにするあなたの実践力を育む</p>	
<p>基本目標</p>	<p>建学の理念 教育目標 指導方針 (吉備アプローチ)</p>	<p>「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する。」</p> <p>「豊かな人間性と確かな実践力を育みグローバルに活躍できるスペシャリストの養成」</p> <p>「懇切丁寧で学生一人ひとりに応じた、基礎・基本を重視して創意工夫を凝らした指導」</p> <p>吉備国際大学は、学校法人順正学園の建学の理念「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する。」を基盤に据え、高梁、南あわじ志知および岡山の3つのキャンパスを持ち、計6学部11学科、通信教育部1学科、通学制5研究科、通信制6研究科を擁する総合大学である。本学は、地域社会の中核的存在として地域創成に資する教育・研究・社会貢献に努め、きらりと光り信頼される大学を目指す。 吉備国際大学の教職員は、建学の理念を踏まえ、教育目標の実現を図るため、学生の目線に立った吉備アプローチの指導方針に徹し、一丸となって下記の教育、研究および社会貢献に関する中期目標の達成に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学部・学科および研究科の3つのポリシー(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)の絶えざる検証と実行。</li> <li>2) 各研究科・学部・学科の教育力および研究力の向上。</li> <li>3) 新設の地域創成農学部、外国語学部およびアニメーション文化学部をはじめ各学部学科の持てる魅力の発信。</li> <li>4) 大学・学部・学科・研究科の魅力を積極的に発信。</li> <li>5) チューター制度を重視し、学生の目線に立った指導による学生サポートの充実。</li> <li>6) 就職率と国家試験合格率100%。</li> <li>7) 地(知)の拠点大学として地域の課題研究への取組とボランティア教育の推進。</li> <li>8) 安全安心な学修環境の保全および健康管理体制の整備。</li> <li>9) 学友会や体育・文化部会と連携した学生の課外活動、スポーツおよび文化サークル活動の積極的な支援。</li> <li>10) 同窓会組織の強化。</li> <li>11) 改革・改善に向けた評価と検証を踏まえた実行目標の提示。</li> </ol>
<p>教育力 (ブランド力)</p>	<p>中期目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教育力の向上</li> <li>2) 積極的な大学・学部・学科・研究科の魅力発信</li> <li>3) 充実した学生サポート</li> <li>4) 就職率100%、国家試験合格率100%</li> <li>5) 留学生への日本語教育の徹底</li> <li>6) 教職センターの機能強化</li> <li>7) 全学教養教育科目の充実</li> <li>8) 安全・危機管理の遵守・対処</li> <li>9) 学修環境の改善</li> <li>10) 学生の課外活動支援</li> <li>11) 改革・改善に対する柔軟な対処</li> </ol>

<p>教育力 (ブランド力)</p>	<p>施策</p>	<p>(H28)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 魅力ある教育研究の実施とそれを確かにする質の高い教員組織を構築する。学長を中心としたIR推進委員会および中核センターや部長等会議等において弛まぬ検証と改革改善を推進する。学生による授業アンケートの実施等、FD研修会の充実を図り、アクティブラーニングの導入を図る。</li> <li>2) 入試広報室と広報委員会および入試代議員教授会が協働し、各学部学科・研究科との密な情報交換をふまえ適宜入試・広報対策を講じる。オープンキャンパス、ホームページ等での確かな情報発信を行う。</li> <li>3) 吉備アプローチによる学生目線に立った懇切丁寧な指導方針を徹底する。授業3日連続欠席通知などによる修学状況の把握と懇切丁寧な指導、学科会議および月次部長等会議での協議、学科と健康管理センター等との連携などにより、早期の学生指導を行う。</li> <li>4) 吉備アプローチによる懇切丁寧な指導の徹底、国家試験指導に対する教職員一体となった協力体制を推進する。キャリア教育およびキャリアサポートセンターと学部・学科等による就職支援を徹底する。</li> <li>5) 留学生に対する日本語能力試験(N1、N2)の適切な履修ガイダンスおよびアジア村などでの学習環境の整備を行う。</li> <li>6) 教員資格取得に向けた指導体制を強化する。</li> <li>7) 地(知)の拠点整備事業に関連して、キャリア開発、ボランティア精神を育む授業科目「地域貢献ボランティア」「地域学概論」を新設する。</li> <li>8) 火災・震災、環境・健康保全管理、各種ハラスメント対策などを実施する。健康管理センターの機能を整備する。</li> <li>9) 図書館機能の充実、学生の自主的学修環境(ラーニングコモンズ・ラーニングサポートセンター)の整備を行う。学生満足度調査を実施(目安箱設置等)する。</li> <li>10) 学生部と学友会や体育・文化部会との密な連携により適宜対応策を講じる。高梁・南あわじ・岡山市民と連携して学生の地域興しボランティア活動を支援する。</li> <li>11) 日本高等教育評価機構による認証評価における指摘事項についての改善に取り組む。</li> </ol>
		<p>(H29)</p>	<p>◆ 施策1～11)の継続・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策1)アクティブラーニング導入授業科目のリストを作成し、実施状況を検証すると共に、アクティブラーニングのFD研修会を開催する。／学生による授業アンケートを研究科にも導入する。</li> <li>・ 施策2)特に各学部学科における修学状況と入試の在り方についてさらなる検証を継続する。</li> <li>・ 施策3)中間報告(9月)を行い、吉備アプローチの指導方針を徹底する。</li> <li>・ 施策4)中間報告(9月)として、就職・国家試験支援の取り組み状況を確認し、吉備アプローチの指導方針を徹底する。</li> <li>・ 施策5)日本語能力試験(N1、N2)の取得状況(合格率)結果と留学生の修学状況を踏まえた、対策についての検討会を開催し対策を講じる。</li> <li>・ 施策6)前年度の教員資格取得状況を踏まえた、対応策についての検討会を速やかに行う。</li> <li>・ 施策7)前年度までの施策を継続し、その結果を集約し対策を講じる。／5年間の「地(知)の拠点整備事業」の総括として、地域貢献ボランティア教育関連活動についてまとめる。／卒業生の地元定着率等の統計を取り、経過をまとめる。</li> <li>・ 施策8)前年度までの施策を継続し、その結果を集約し対策を講じる。</li> <li>・ 施策9)目安箱などによる学生満足度調査を踏まえた対策を講じる。</li> <li>・ 施策10)前年度の学友会等からの要望事項に対する処置を講じる。</li> <li>・ 施策11)前年度に実行できなかった認証評価の指摘事項を引き続き実行する。</li> </ul>

<p>教育力 (ブランド力)</p>	<p>施策</p>	<p>(H30)</p>	<p>◆ 施策1～11)の継続・推進および、その進捗状況の総括と課題についてまとめる。年度末に3年間の総括と今後の課題についてまとめる。また、次期中期目標・計画を定める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策1)FD研修会で、アクティブラーニングを導入した授業科目の実例について報告する。</li> <li>・ 施策2)前年度までの修学状況と入試制度と入学後の状況の関連結果を集約し、更なる改善を行う。</li> <li>・ 施策3)前年度までの施策を継続し、その結果を集約し対策を講じる。</li> <li>・ 施策4)前年度までの施策を継続し、その結果を集約し対策を講じる。</li> <li>・ 施策5)前年度までの施策を継続し、その結果を集約し対策を講じる。</li> <li>・ 施策6)前年度までの施策を継続し、その結果を集約し対策を講じる。</li> <li>・ 施策7)5年間の「地(知)の拠点整備事業」の総括を踏まえた取り組みを行う。／地域連携センターの推進体制について整備する。</li> <li>・ 施策8)前年度までの施策を継続し、その結果を集約し対策を講じる。</li> <li>・ 施策9)前年度までの施策を継続し、その結果を集約し対策を講じる。</li> <li>・ 施策10)前年度までの施策を継続し、その結果を集約し対策を講じる。</li> </ul> <p>◆ 新規施策</p> <p>12) 学部、学科、研究科の年次進行状況を踏まえ3年間の中期目標達成度の評価と今後の課題についての総括を行い、次期中期目標計画書の作成を行う。</p>
<p>研究力</p>	<p>中期目標</p>		<p>1) 地(知)の拠点大学として全教員による地域志向の研究課題の設定 2) 研究力を高め全教員のresearchmap 登録による研究情報発信 3) 附属研究所と連携して大学院の活性化を図り大学院の魅力を発信 4) 科研費の新規採択件数の増加 5) 改革・改善に対する柔軟な対処</p>
		<p>施策</p>	<p>(H28)</p>
		<p>(H29)</p>	<p>◆ 施策1～4)の継続・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策1)全教員による地域志向の研究課題取組状況を総括し、5年間の「地(知)の拠点整備事業」の成果をまとめる。</li> <li>・ 施策2)教員の関連学会への参加状況を集約し、対策を講じる。／Researchmapの登録状況を各学科で確認し、対策を講じる。</li> <li>・ 施策3)前年度の取り組みをさらに強化し、大学院の魅力を発信する。</li> <li>・ 施策4)共同研究費配分者の科研費採択率の調査結果を集約し、対策を講じる。</li> </ul>



研究力	施策	(H30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施策1～4)の継続・推進および、その進捗状況の総括と課題についてまとめる。年度末に3年間の総括と今後の課題についてまとめる。また、次期中期目標・計画を定める。</li> <li>・ 施策1) 全教員による地域志向研究課題の発表状況(論文・学会報告など)を集約し、対策を講じる。</li> <li>・ 施策2) 教員の関連学会への参加状況と科研費獲得の関連性の統計を集約し、対策を講じる。・Researchmapの登録状況と科研費の関連性の統計結果を集約し、対策を講じる。</li> <li>・ 施策3) 前年度の取り組みをさらに強化し、大学院の魅力を発信する。</li> <li>・ 施策4) 共同研究費配分者の科研費採択率の調査結果を集約し、対策を講じる。</li> <li>◆ 新規施策</li> <li>5) ・学部、学科、研究科の年次進行状況を踏まえ3年間の中期目標達成度の評価と今後の課題についての総括を行い、次期中期目標計画書の作成を行う。</li> </ul>	
地域連携力	中期目標		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 『地(知)の拠点整備事業』および『COCプラス事業』による社会貢献の推進</li> <li>2) 生涯学習講座の開催</li> <li>3) 国際大学として英語スピーチコンテストを企画する</li> <li>4) 留学生の日本語能力の向上支援</li> <li>5) 高梁市医師会と連携した地域の医療・看護・福祉の発展への寄与</li> <li>6) 産学連携推進</li> <li>7) 改革・改善に対する柔軟な対処</li> </ol>	
		施策	(H28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 『地(知)の拠点整備事業』(平成25年度文部科学省事業採択)を推進する。産学連携に係わる地域志向の研究を積極的に推進する。『地(知)の拠点整備事業』4年目の取り組みを計画的に実施する。平成27年度「地(知)の拠点大学による地方創成推進「COCプラス」事業」(中核大学:岡山県立大学)および同事業(中核大学:神戸大学)に採択された事業に参加校および協力校として参画する。</li> <li>2) 吉備国際大学公開講座、岡山県生涯学習大学、吉備創成カレッジなどを実施する。</li> <li>3) 岡山県内の高校生を対象としたスピーチコンテストを主催する。高梁市の教育委員会と連携した中学生を対象としたスピーチコンテストを主催する。</li> <li>4) 入学後早期に日本語能力試験(N1)に合格するための日本語教育を行う。日本語スピーチコンテストを開催する。</li> <li>5) 地域医療福祉センター(スキルラボ)の活用(地域の看護師の研修等)を図る。</li> <li>6) 地域の課題解決の研究を推進する。産業界との連携を推進するために岡山リサーチパーク研究・展示発表会、岡山・産学官連携推進会議、OUSフォーラム、おかやま生体信号研究会等に参加する。</li> </ol>
			(H29)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施策1～6)の継続・推進</li> <li>・ 施策1) 継続した取り組みを行うとともに、平成25年度採択の「地(知)の拠点整備事業」の5年間の総括をまとめる。／次期事業についての検討を行う。</li> <li>・ 施策2) 「地の拠点整備事業」関係公開講座等の総括とまとめを作成する。</li> <li>・ 施策3) 前年度の実施状況を踏まえた取り組みを行う。</li> <li>・ 施策4) 前年度の状況を踏まえた効果的な対応を実施する。</li> <li>・ 施策5) 前年度の実績を踏まえ、新規の企画を含め実施する。</li> <li>・ 施策6) 新規の産学連携協定が実現する事例を開発する。</li> </ul>

地域連携力	施策	(H30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施策1～6)の継続・推進および、その進捗状況の総括と課題についてまとめる。年度末に3年間の総括と今後の課題についてまとめる。また、次期中期目標・計画を定める。</li> <li>・ 施策1)COCプラス事業を継続し、卒業生の地元定着率の促進等に努める。</li> <li>・ 施策2)各公開講座の総括と実施内容について検証を行う。次期目標・計画を定める。</li> <li>・ 施策3)3年間の活動の総括と検証を行い。次期目標・計画を定める。</li> <li>・ 施策4)前年度までの結果を踏まえた改善内容を実施する。また、3年間の留学生の修学状況および試験合格状況を踏まえ、対策を講じる。</li> <li>・ 施策5)期間中の活動を総括し、実施内容を定める。</li> <li>・ 施策6)期間中の取り組みを総括し、特に産学連携協定の実現状況を踏まえ、対策を講じる。</li> <li>◆ 新規施策</li> <li>7) 学部、学科、研究科の年次進行状況を踏まえ3年間の中期目標達成度の評価と今後の課題についての総括を行い、次期中期目標計画書の作成を行う。</li> </ul>
-------	----	-------	--

学 部 · 学 科

ビジョン (人材養成)		<p>現代社会の課題に挑む！</p> <p>社会現象のメカニズム、人々の生活課題、様々な社会問題の探求を通して、現代社会の仕組みを理解し、社会に貢献できる人材を養成します。</p>
教育力 (ブランド力)	中期目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 社会学、経営学、スポーツ・健康科学に関する専門的な知識とその知識を活用する能力を身につけた人を養成する。</li> <li>2) 様々な社会の諸事象を認識し、国際社会と地域社会を視野に入れながら行動できる人を養成する。</li> <li>3) 協調性と創造性を併せ持ち、社会に対して自ら積極的に働きかけができる人を養成する。</li> <li>4) 生涯にわたり学び続けることができる能力を持った人を養成する。</li> <li>5) 全学生が挨拶ができるようになり、人間性を身につけ、就職率を100%とする。学生が満足する質の高い教育を提供する。</li> <li>6) 留学生に質の高い日本語教育プログラムを提供し、教育効果を向上させる。</li> <li>7) 経営学、社会学、スポーツ科学による地域貢献活動を展開する。</li> </ol>
	(H28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学生支援・就職支援:「日本一面倒見の良い学科」「就職に強い学科」の実現と、魅力ある教育による学生満足度と就職率の向上を図る。</li> <li>2) 成績不振の学生や登校しない学生等を早期に把握し指導する。</li> <li>3) 学部の魅力発信に努める。</li> <li>4) (留学生の)N2/N1合格率アップのために、チューター・ゼミ担当教員による個別的な日本語教育を実施する。</li> <li>5) 各運動部との連携の下、環境整備、サポート体制づくりなどに取り組む。</li> <li>6) 保健体育教員免許取得者の増加、教員採用試験合格者の増加及び資格試験合格率を高めるべく、指導体制を強化する。</li> </ol>
	施策 (H29)	<p>◆ 施策1～6)の継続と推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策1)チューター・ゼミごとの担当教員のきめ細かな学生指導と教員間の情報共有および連携を通じた包括的な学生支援体制を確立する。施策3)学科ホームページ・ブログ質の強化と高校出張講義や説明会等を強化する。</li> </ul> <p>◆ 新規施策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7) 新カリキュラムを導入し、新設科目の実行とその安定的運営および実質化を図る。</li> <li>8) スポーツ系の分野において就職先の開拓を行う。</li> <li>9) 地域と連携し住民対象の社会貢献活動を年間を通じて行う。</li> </ol>
	(H30)	<p>◆ 施策1～9)の継続と推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策1)授業の質の向上と就職の動機づけ・イメージ作り教育を一層強化する。施策2)学科独自の新生歓迎会等のイベント開催による教員・学生間の意思疎通の円滑化を図る。施策8)地域貢献力の養成:地域密着実践型学科特性を活かして教育力・ブランド力を向上させる。</li> </ul> <p>◆ 新規施策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>10) 学部内の教員構成含め、教育体制充実の方策を検討する。</li> <li>11) 学科の研究や実践事業の実施によって蓄積・構築した、ノウハウやプログラムなどを、社会に対して発信・提供する。</li> </ol>

研究力	中期目標		1) 社会の様々な事象が起きる仕組み、人々の身体や健康について研究し、社会問題の解決を目指す。 2) 全教員が地域志向の研究に関与する。 3) 全教員がresearchimapアップデートを行い適切な情報発信を行う。 4) 1/3の教員が科研費、その他の研究費に採択されていることを目指す。 5) 学会等で教員研究成果を発表し、研究成果の社会への還元を行う。
	施策	(H28)	1) 全教員が年間1回以上は学会に参加する。 2) 1/3の教員が地域志向研究課題を設定する。 3) 全教員がresearchimapのアップデートを行い適切な情報発信を行う。
		(H29)	◆ 施策1)～3)の継続と推進。 ・ 施策2)では半数の教員が地域志向研究課題を設定する。 ◆ 新規施策 4) 半数の教員が研究費に応募する。 5) 全教員が2年に1回以上学会発表を行う。
		(H30)	◆ 施策1)～5)の継続と推進。 ・ 施策2)では、特任を除く全教員が地域志向研究課題を推進する。 ◆ 新規施策 6) 社会科学部学術研究会を開催する。 7) 全教員が平成28年度～平成30年度の間に1編以上の論文を投稿する。
地域連携力	中期目標		1) 『地(知)の拠点整備事業』および『COCプラス事業』による社会貢献の推進。 2) 生涯学習講座等地域連携講座の開催。 3) 学部・学科・教員は、その研究活動の成果を広く地域社会に還元する。 4) 高等教育機関としての責任を自覚し、環境問題を含む社会問題の解決に取り組む。 5) 地域委員会等に参画し専門的な知識を地域に提供する。
	施策	(H28)	1) 学部として4件以上の地域貢献事業に取り組む。 2) 公開講座等に毎年1件以上講師を派遣する。 3) 学部、学科、研究室単位で地域貢献ボランティア活動に取り組む。 4) 高等学校との連携を強め、高校生教育に貢献する。
		(H29)	◆ 施策1)～4)の継続と推進。 ・ 施策1)では学部として6件以上の地域貢献事業に取り組む。 ◆ 新規施策 5) 高梁市を含む地域の委員などの要請に積極的に取り組む。 6) 学部として地域貢献に関係したフォーラムを開催する。
		(H30)	◆ 施策1)～6)の継続と推進。 ・ 施策1)では学部として8件以上の地域貢献事業に取り組む。 ◆ 新規施策 7) 地域課題の解決を目指して、学部と地域団体との連携活動に取り組む。

ビジョン (人材養成)		<p><b>時代を生き抜く経営学と社会学を学ぶ！</b></p> <p>経営・社会・環境について学び、協調性と創造性を磨き、グローバル化への対応能力を培い、持続可能な社会を担う人材を養成します。</p>
教育力 (ブランド力)	中期目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 社会学、経営学、スポーツ・健康科学に関する専門的な知識とその知識を活用する能力を身につけた人を養成する。</li> <li>2) 様々な社会の諸事象を認識し、国際社会と地域社会を視野に入れながら行動できる人を養成する。</li> <li>3) 協調性と創造性を併せ持ち、社会に対して自ら積極的に働きかけができる人を養成する。</li> <li>4) 生涯にわたり学び続けることができる能力を持った人を養成する。</li> </ol>
	施策 (H28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学生支援・就職支援:「日本一面倒見の良い学科」「就職に強い学科」の実現と、魅力ある経営学・社会学の融複合型教育による学生満足度と就職率の向上を図る。</li> <li>2) 成績不振の学生や登校しない学生等を早期に把握し指導する。</li> <li>3) 学科の魅力発信に努める。</li> <li>4) (留学生の)N2/N1合格率アップのために、チューター・ゼミ担当教員による個別的な日本語教育を実施する。</li> </ol>
	施策 (H29)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施策1-4)の継続・推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策1)チューター・ゼミごとの担当教員のきめ細かな学生指導と教員間の情報共有および連携を通じた包括的な学生支援体制を確立する。施策3)学科ホームページ・ブログ強化と高校出張講義や説明会等を強化する。</li> </ul> </li> <li>◆ 新規施策</li> <li>5) 新カリキュラムの導入:地域創生系などの新設科目の実行とその安定的運営および実質化を図る(地域連携型イベントへの参加)。</li> </ul>
	施策 (H30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施策1-5)の継続・推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策1)授業の質の向上と就職の動機づけ・イメージ作り教育を一層強化する。</li> <li>・ 施策2)学科独自の新生歓迎会等のイベント開催による教員・学生間の意思疎通の円滑化を図る。</li> <li>・ 施策3)全教員の地域広報活動による学科の魅力発信に努める。</li> <li>・ 施策5)地域貢献力の養成:地域密着実践型学科特性を活かして教育力を向上させる。</li> </ul> </li> </ul>

ビジョン (人材養成)		スポーツに対するいろいろな興味を満たす！  スポーツの指導、組織化、運営に関する知識と技術を身につけ、スポーツ関連分野でリーダーシップを発揮できる人材を養成します。
教育力 (ブランド力)	中期目標	1) 諸種のスポーツ競技において、アスリートとして、高いパフォーマンスを発揮し、トップクラスの競技成績を獲得する。コーチの専門的な知識・技能を教授する。 2) スポーツの特性を生かして、学校教育の場において、教育目標の達成に資することのできる、保健体育教諭を養成する。 3) 成人に対して、健康状態の改善や維持・増進、さらに高齢者の介護予防などを目的とする運動指導を、専門的に行える人材を養成する。 4) 総合型スポーツクラブや、各種のスポーツ組織、競技スポーツクラブやチームにおいて、組織の運営に従事する、専門的マネジメント能力を備えた人材を養成。 5) スポーツによる地域貢献活動を展開する。
	(H28)	1) 高いレベルのスポーツ競技成績を獲得するために、各運動部との連携の下、環境整備、サポート体制づくりなどに取り組む。 2) 保健体育教員免許取得者の増加、更には教員採用試験合格者の増加をめざして、学内の教員養成システムとの連動を促進し、学科内でも基礎学力の向上、学生のモチベーションの維持・向上を図る方策を講じる。 3) 健康づくりや介護予防を目的とした運動指導の専門家に対する需要が高まる中、健康運動指導士及び健康運動実践指導者資格試験の合格率をさらに高めるべく、指導体制を強化する。
	施策 (H29)	◆ 施策1)～3)を継続して推進していきつつ、特に健康運動指導士および健康運動実践指導者の就職開拓を行う。 ◆ 新規施策 4) 新たなカリキュラムの下で、スポーツコーチの専門的知識を教授する。これによって、在学中及び卒業後、何らかのスポーツ種目のコーチ資格を取得する基礎となす。 5) 協会認定資格の取得者の増加を図る。特に、総合型スポーツクラブや、各種スポーツ組織、競技スポーツクラブなどにおけるマネジメントスタッフの輩出と、その就職先の開拓に努める。 6) 地域と連携し住民対象のスポーツによる社会貢献活動を年間を通じて行う。
	(H30)	◆ 施策1)～6)を継続して推進していきつつ、より多様なスポーツ種目の学生を獲得できるように、学科内の教員構成含め、方策を検討する。 ◆ 新規施策 7) 本学科の専門性を生かした、従来本学科が対象としてきたスポーツ系の分野に含まれない、スポーツビジネス分野の開拓に努め、学生の進路として位置づける。 8) 本学科の研究やスポーツ指導実践やスポーツ事業の実施によって蓄積・構築した、スポーツ指導ノウハウやトレーニングプログラム、スポーツ事業運営ノウハウなどを、社会に対して発信・提供する。

ビジョン (人材養成)		<p>保健医療福祉のスペシャリスト養成！</p> <p>次世代を担う質の高い保健医療福祉の専門家を養成します。</p>	
教育力 (ブランド力)	中期目標	<p>団塊の世代が後期高齢者になる2025年を見据えて、高齢社会を支える両輪である医療と福祉の専門職を多数送り出す。</p> <p>それぞれの職種についての知識と技術を高めるのみならず、現場で求められる多職種連携のための、他職種とのコミュニケーション能力を高める。</p>	
	施策	(H28)	<p>1) 各学科で行われる専門職教育と国試験対策を推進する。 4学科合同で行われる、1年春期の「保健医療福祉概論」、2年秋期に行われるキャリア開発IIなどの授業・演習において、現場で求められている多職種連携のための他職種とのコミュニケーション能力を養成する。</p> <p>2) 4学科合同で行われる、1年春期の「保健医療福祉概論」、2年秋期に行われるキャリア開発IIなどの授業・演習において、現場で求められている多職種連携のための他職種とのコミュニケーション能力を養成する。</p>
		(H29)	<p>◆ 施策1-2)の継続・推進</p> <p>◆ 新規施策</p> <p>3) リメディアル教育を開始する。</p>
		(H30)	<p>◆ 施策1-3)の継続・推進</p> <p>◆ 新規施策</p> <p>4) リメディアル教育を学部全体で系統的に行う。</p>
研究力	中期目標	<p>研究力については、大学全体の方針に則り、取り組みを推進する。</p> <p>また、学部独自の研究テーマとして、「防煙教育・禁煙支援」を設定する。</p> <p>2015年夏に実施したアンケートで、当学部3、4年生の内、男性の30%、女性の3%が喫煙しており、他大学より喫煙率が高いことが判明した。保健医療福祉の専門職は、禁煙を推進する立場になるので、学生が喫煙を開始しないようにすることと喫煙してしまった場合には、就職までに禁煙できるようなシステムを構築する。</p> <p>現在、医療系大学の約7割が敷地内全面禁煙化されている。受験生に選ばれる学部とするためにも、敷地内全面禁煙化することが望まれる。</p>	
	施策	(H28)	<p>「防煙教育・禁煙支援」の研究と連動させ、以下の実践を行う。</p> <p>1) 4学科合同で行われる、1年春期の「保健医療福祉概論」で、職業倫理としての禁煙を教育する。</p> <p>2) 禁煙支援室において認知行動療法を施行する。</p> <p>3) 喫煙率を男子学生20%、女子学生2%に減少させる。</p>
		(H29)	<p>◆ 施策1-2)を継続・推進し、喫煙率を男子学生10%、女子学生1%に減少させる。</p> <p>◆ 新規施策</p> <p>4) 7号館の喫煙室を1か所に減らす。大学敷地内の全面禁煙化を提案する。</p>
		(H30)	<p>◆ 施策1-2)を継続・推進し、学生の喫煙率をゼロにする。</p> <p>◆ 新規施策</p> <p>5) 7号館の喫煙室を廃止する。</p>



地域連携力	中期目標	高梁地区の保健医療福祉専門職のリカレント教育に貢献する。 一般市民の方々への保健医療福祉への啓蒙活動を行う。
	施策	(H28) 1) 高梁市在宅医療連携拠点事業推進協議会、高梁医師会等、高梁地域の医療福祉団体が推進している事業に参画する。 2) 高梁市内の小中学校で、「いのちの教育」をさせていただく。 3) 高梁消防本部が市民向けに行われている救急処置講座にスキルラボを利用させていただく。
		(H29) ◆ 施策1-3)の継続・推進 ◆ 新規施策 4) 市民向けの健康講座を行う。
		(H30) ◆ 施策1-4)の継続・推進 ◆ 新規施策 5) 地域の医療福祉団体と協力して、多くの市民に参加していただけるような企画を実行する。
その他	中期目標	社会福祉学科の在籍学生数増を目指す。
	施策	地域医療福祉センターが行う保健医療福祉の啓蒙活動の一環として、地域の高校生に福祉についての関心を高めてもらえるよう働きかける。 看護、理学・作業療法学科で、進路変更を考えている学生に社会福祉学科への転学科を勧める。

ビジョン (人材養成)		あたたかな心と看護の確かな知識と技術を育む！  あたたかな「看護の心」と確かな知識・技術を身につけた看護専門職を養成し、地域の保健医療の発展に貢献します。
教育力 (ブランド力)	中期目標	1) あたたかな看護の心を育み、人間と生命の尊厳を護る倫理的態度の醸成 2) 科学的根拠に基づくケアを実践する看護専門職としての力量の醸成 3) 看護師・保健師、養護教諭一種・高校教諭一種などの人材育成のさらなる充実 4) 国家試験(看護師・保健師)合格率100%達成・維持と、養護教諭・高校看護教諭の合格率の向上 5) 県内外の保健医療関係機関との連携をさらに深め、看護実践力を向上・深化 6) 学生の希望にそった進路(就職・進学)の100%達成・維持  ↓ 保健医療の創造的発展に寄与する人材を養成する
	(H28)	1) あたたかな看護の心、人間と生命の尊厳を護る倫理的態度の醸成強化(目標1) 平成25年度改正カリキュラム(新カリ)の更なる充実/看護の魅力語る/保健医療現場での学びの深化/看護学科20年史の作成 2) 科学的根拠に基づくケアを実践する看護専門職としての力量醸成(目標2) 看護基礎教育の充実・強化(複数教員による丁寧な指導)/実習施設のさらなる充実/実習指導の洗練化/臨床講義の継続強化/地域医療福祉センター、保健福祉研究所などの付属施設活用/看護研究の強化 3) 学科の魅力発信、人材育成の充実、国家試験(看護師・保健師)の合格率100%達成と希望進路の保障(目標3・4・6) 学科の魅力発信/看護師・保健師など専門教育の発展強化/養護教諭・高等学校教諭(看護)採用試験受験対策の強化/リメディアル教育の強化/1～4年次の系統的な学習保障/低学年からの国家試験対策システム化/学生自ら学ぶ力の醸成/学科FD研修の継続 ↓ ↓ 国家試験100%(看護師・保健師)達成、養護教諭・高等学校教諭(看護)の合格率向上 学生の希望にそった進路(就職・進学)を100%達成  4) 県内外の保健医療関係機関との連携をさらに深め、看護実践力の向上(目標5) 保健医療現場での学びの洗練化と実践/実習施設との連携強化/実習指導者との綿密な打ち合わせ/シミュレーション教育の導入/地(知)の拠点事業の継続・強化/地域連携の成果を地域発展に繋ぐ
	施策	◆ 施策1—4)の継続・推進 国家試験(看護師・保健師)合格率100%の維持 養護教諭・高等学校教諭(看護)合格率の更なる向上 ・ 施策1)平成25年度新カリの見直しと検討(評価基準の明確化) ・ 施策2)看護基礎教育の評価と教育方法の洗練化/実習による学習効果の評価/実習指導の洗練化 ・ 施策3)の評価・改善 ・ 施策4)の評価・改善
	(H29)	◆ 施策1—4)の継続・推進 国家試験(看護師・保健師)合格率100%の維持と養護教諭・高等学校教諭(看護)合格率向上 ・ 施策1)平成25年度新カリの見直しと検討(評価・修正) ・ 施策2)科学的根拠に基づく教育実践の深化/教育活動(講義・演習・実習)の評価・改善 ・ 施策3)の評価・改善 ・ 施策4)の評価・修正⇒実践
(H30)	◆ 施策1—4)の継続・推進 国家試験(看護師・保健師)合格率100%の維持と養護教諭・高等学校教諭(看護)合格率向上 ・ 施策1)平成25年度新カリの見直しと検討(評価・修正) ・ 施策2)科学的根拠に基づく教育実践の深化/教育活動(講義・演習・実習)の評価・改善 ・ 施策3)の評価・改善 ・ 施策4)の評価・修正⇒実践	

ビジョン (人材養成)		<p>私立大学の「老舗」理学療法士養成課程！</p> <p>私立大学の老舗理学療法士養成課程としての「教育の質」と「社会的信頼」を追求し、“プロフェSSIONAL”な理学療法士を養成します。</p>
教育力 (ブランド力)	中期目標	<p>1) 「教育の質」のアウトカム“国試合格率100%”の達成                  2) 就職率100%堅持・“社会的信頼の裏打ち”求人総数2,000名以上の水準確保                  3) 高度多様化する超高齢社会ニーズに対応する人材を養成する教育の洗練化                  4) 専門職としての自律と豊かな人間性を育む, 面倒見良い行き届いた教育推進</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>“カテゴリーキラー” “チャレンジャー”からの脱皮                  理学療法士を養成する西日本私立大学セグメントの上位層に食い込む</p>
	(H28)	<p>1) 国試合格率100%達成に向けた対策洗練化(目標1・2・3)                  GPAを含む前年度結果分析/対策枠組みの洗練化/個重視の指導推進/学修環境整備</p> <p>2) 就職対策の洗練化(目標2)                  就職指導の強化/各種イベントへの積極的参画/OB活用・臨床実習とリンクした求人開拓・採用確保</p> <p>3) 学科の魅力発信(目標3)                  OC・ホームページ・ブログの質追求/競合校教育・広報活動リサーチ/受験者層明確化に基づく対策重点化と新規開拓</p> <p>4) 教育の質追求(目標4・5)                  学科独自のFD推進/アンケート結果分析に基づく授業実施/臨床実習の指導精緻化・安定的運用</p> <p>5) 学科教育システムの洗練化(目標5)                  チューター・ゼミ機能充実/学生情報共有・指導システム化/学生サポート体制の充実・転学科指導の洗練/地(知)の拠点整備事業と連動した地域・臨床指向の体験型学修推進</p>
	施策	<p>◆ 施策1-5)の継続・推進.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策1) 国試合格率100%達成: “最重点課題”に位置付け, 前年度結果分析に基づき対策を精緻化。</li> <li>・ 施策3) 学科の魅力発信: “吉備でなければ学べない”アピールすべきOnly oneのカラーを, 施策取組で明確化・可視化し訴求。</li> </ul> <p>◆ 新規施策</p> <p>6) 指定規則改正に基づく魅力ある新カリキュラム検討(目標4・5)※法改正時対応プロジェクトチーム設置/養成すべき次代を担う理学療法士像構築/他校教育実践レビュー/新設科目の試行</p>
	(H30)	<p>◆ 施策1-6)の継続・推進.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策1) 国試合格率100%達成: “最重点課題”に位置付け, 前年度結果分析に基づき対策を精緻化。</li> <li>・ 施策6) 新カリキュラムの導入: 安定的運用と実質化を図る。</li> </ul> <p>◎ 老舗理学療法士養成課程として永続していくための, 確かなブランド力・地力を身につける</p>

ビジョン (人材養成)		作業療法士としての輝かしい未来を拓く！  作業療法の基礎から最先端の理論と実践を教授し、作業療法士としての輝かしい未来を拓きます。
教育力 (ブランド力)	中期目標	1) 国家試験合格率:新卒生100%、9月卒業生100%、既卒生50%以上の達成 2) 作業療法士を目指す動機づけを高め、自己学習意欲を強化する 3) 学科の魅力発信 4) 学生指導力の向上
	(H28)	1) 国試合格率の達成(中期目標1) 国家試験合格基準としての卒業判定の導入/学内模試10回、業者模試4回を実施/4年生の臨床実習終了後より早期臨戦態勢/国試再チャレンジ生の大学再集結および通信指導体制/9月卒業生のための自習室を確保し学習環境を整備/外部の国試受験機関を積極利用 2) 作業療法士を目指す動機づけと自己学習意欲(中期目標2) 作業療法の魅力を早期よりアピール/保健医療の臨床場面の参加(アーリーエクスポーズ)/個別面談により学生の作業療法士への適性を引き出す/教員個々のキャリア(体験談)およびランチミーティングなどを実施/学生の能力の延伸(目標GPA平均2.4以上)/1年次春期より解剖学と生理学の復習を学科教員の指導の下に実施し、学習習慣の確立/成績不振学生に対する学習指導と補習授業 3) 学科の魅力発信(中期目標3) オープンキャンパスの内容の充実/学科独自のブログの充実・発展/高校への出前授業の拡大OB学生との連携 4) 学生指導力の向上(中期目標4) チューターを核にきめ細かい生活・学修指導/臨床実習に向けてのソーシャルスキルの強化
	施策	◆ 施策 1-4)の継続・推進 ・ 施策 1) 受験指導の教員研修/ハイリスクな学生に対する指導強化 ・ 施策 2) 目標GPA平均2.45以上 ・ 施策 3) 日本作業療法士協会や岡山県士会での啓蒙活動を拡充 ・ 施策 4) 学科会議での学生情報のさらなる共有化  ◆ 新規施策 5) 臨床実習前の模擬患者による実習技術の強化(中期目標2・4) 6) 指定規則改正に基づき新カリキュラムの改革案の検討(中期目標2)
	(H30)	◆ 施策 1-6)の継続・推進 ・ 施策 1) 3年次より国試対策の導入 ・ 施策 2) 目標GPA平均2.5以上 ・ 施策 3) 作業療法啓蒙活動をさらなる拡充 ・ 施策 4) 学生の自主活動であるOT吉備会の支援 ・ 施策 5) 臨床実習前の模擬患者による実習枠の拡大 ・ 施策 6) 新カリキュラムによる教育効果の検討  ◆ 新規施策 7) 学科卒業生との連携強化(中期目標3) 同窓会・吉備国OT学会の企画支援

ビジョン (人材養成)		福祉の学びを自分と他者のより良い人生を築く力に！  福祉教育を通じた一人ひとりの個性を輝かせる人間力の養成と寄り添う力・生きる力の養成を目指します。
教育力 (ブランド力)	中期目標	1) 学生一人ひとりの能力を重視し、細やかな教育と支援による豊かな人間性発揮へ 2) 学科の魅力発信 3) 学生指導力の向上 4) 国家試験合格率:国家試験合格全国平均(大学新卒者)を超える。
	(H28)	1) 国家試験他、資格、キャリアアップ教育の徹底 個別の力量に沿った国家試験対策:模擬試験、模試結果に基づく個別面談の徹底、学修進度に沿った教員モニタリングの実施。 学生の希望に沿った就職(就職率95%の達成)と、各自進路に沿った資格取得や研修体験の促進。 2) 個別性重視の教育(課題発見型教育)の推進 個別学修課題を克服し、年次ごとの課題克服のステップを踏めるように教育(初年次教育、記述力指導、個別性把握、体験による学び強化)。 3) 社会貢献力の養成と他職種との連携力強化 「コミュニティ活動演習」・「地域学概論」授業のつながりを検討し、地域理解を深める。 学部内の合同授業や、他学科生等との交流を活かし、学生のコミュニケーション能力と連携力・調整力を高める。
	施策 (H29)	◆ 施策 1-3)の継続・推進(以下、各項目の強化策) ・ 施策2) 学科一丸となり、個別に学生の能力の延伸を図る工夫を協議。学生一人ひとりに日本語検定、漢字検定等の能力向上のための具体的克服策を提 ・ 施策2) 教育的心理的支援を強化。 ・ 施策3) 開講3年目のコミュニティ活動演習・地域学概論の内容の充実を図る。  ◆ 新規施策 4) 1~4年合同授業(総合福祉論)による学生全体と卒業生との関係の構築。学科全体の学修や交流環境、スペースの充実化。
	(H30)	◆ 施策 1-4)の継続・推進(以下、各項目の強化策) ・ 施策2) 個別の教育および学生支援を通して、成長過程を随時整理し、学科全体で共有。 ・ 施策2) 転学科生と学科生全体の関係性の強化。  ◆ 新規施策 5) 1~4年合同授業(総合福祉論)、合同演習、OBOG交流会等による学生全体と卒業生との関係を深め、社会へ巣立つ成長イメージを育む。 6) ボランティアセンターでの各種実践および演習・実習教育のプロセスを重視した個別教育の流れの構築(基礎演習、基礎実習~ボランティア実践~国家資格に関わる実習等への個別の円滑な成長のイメージ化を図る)

心理学部

ビジョン (人材養成)		「こころ」を科学し、心理学マインドを身につける！  「こころ」についての理解を深め、よりよい人間関係を築く力を養成します。
教育力 (ブランド力)	中期目標	1) 学部の魅力発信  2) 学生指導力の向上 各学科教員の連携、チューター、ゼミ担当教員のきめ細かな指導を行う。  3) 就職率の向上について 学生の就職に対する動機づけを強化し、100%の就職率を目指す。  4) 学生の学力向上について 積極的な受講態度を涵養するとともに学習習慣を身につけさせ学力を向上させる。(平均GPA2.5以上を目指す)
	施策	(H28) 1) 学部の魅力発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心理学科、子ども発達教育学科双方の教育特色・魅力をわかりやすく紹介するパンフ・チラシを作成し、高校への出張講義や説明会等において配布しアピールする。</li> <li>・ 両学科の現状紹介や動向、卒業生・在学生の現状報告等を掲載した、「学部ニュースレター」を作成し、学生の出身高校へ配布する。(高校と学科とのパイプ作りと信頼関係の強化)</li> </ul> 2) 学生指導力の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1, 2年次においては、基礎学力の向上を図るとともに、学内外のフィールドにおける野外活動を実施し、学生同士(同輩・先輩・後輩)の友好・互恵的な人間関係を構築するとともに各教員との信頼関係を強化し、プライド・アイデンティティの形成や自尊感情の醸成を図り、学習意欲の維持強化と学生生活への適応力を涵養する。3, 4年次には、形成された自己効力感や自己有用感をベースとして、将来への展望や具体的な目標を持たせる。</li> <li>・ チューター、ゼミ担当教員のきめ細かな指導援助は勿論のこと、教員間の情報共有や連携を密にして、学生への支援体制を強化する。</li> </ul> 3) 就職率の向上対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入学当初より、就職への動機づけ・イメージ作りを行い、学習意欲の維持強化と自己能力感の醸成を図る。</li> <li>・ キャリアサポートセンターと緊密に連携し、100%の就職率を目指す。</li> <li>・ キャリア教育の一環としてSPI等を活用し、就職採用試験に対応できる能力を涵養する。</li> </ul> 4) 学力の向上対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リメディアル学習による基礎学力(読解力や思考力、発表表現力等)の向上を図るとともに、自立的・積極的な学習態度・学修習慣を身につけさせ、教養・専門領域における学力の向上を図る(平均GPA2.5以上)。</li> </ul>
	(H29)	◆ 施策1-4)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。 ・ 施策1)学部の魅力発信、最重点課題として取り組む。 ◆ 新規施策 5) ※両学科の学生交流を深め、学部に対するアイデンティティ強化を図る。
	(H30)	◆ 施策1-5)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。 ◆ 新規施策 6) ※両学科に共通する就職情報を共有化し、就職率の向上を図る。

研究力	中期目標	1) 教員各個人の研究分野における主体的な研究活動を推進する。 2) 所属学会における研究発表や学会誌等への論文投稿を推進する。 3) 公的助成や各種研究助成団体等からの外部資金の獲得を推進する。	
	施策	(H28)	1) 研究活動の推進について ・各教員の所属学会や研究会への参加を推進し、研究資質・能力の向上を図る。 ・各教員の所属学会における研究発表や学会誌、大学研究紀要等へ積極的な投稿を推進し、学会発表、研究論文、著書、訳書、研究報告書、作品等を、毎年次1件以上発表(公表)するよう努める。 2) 外部資金の獲得について ・公的助成や各種研究助成団体等からの外部資金の獲得を推進し、文科省科学研究費には全教員の応募を目指す。
		(H29)	◆ 施策1-2)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。 ◆ 新規施策 3) ※科研費申請等による外部資金獲得件数を増やす。 4) ※大学紀要・研究センター紀要への投稿を推進する。
		(H30)	◆ 施策1-4)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。 ◆ 新規施策 5) ※学会発表・研究論文の公表(学会誌への投稿)を推進する。
地域連携力	中期目標	1) 心理学科・子ども発達教育学科が取り組んでいる、地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)を推進する。 2) 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)完了後における地域貢献事業の継続推進。	
	施策	(H28)	1) 心理・発達総合研究センターにおける地域貢献 ・地域の乳幼児、児童、青年、成人を対象とした心理・発達にかかわる相談・援助等、「心のケア支援」活動を推進する。 2) 子育てカレッジにおける地域貢献 ・地域における子育て支援事業(親子と学生の交流事業、子育て相談・講座、プレーパーク等)を推進する。
		(H29)	◆ 施策1-2)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。 ◆ 新規施策 3) ※両学科の取り組み成果を公表するとともに活動推進に努める。
		(H30)	◆ 施策1-3)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。 ◆ 新規施策 4) ※アウトリーチ型の地域貢献に努める。

ビジョン (人材養成)		脳を知り、心を知り、心理学を楽しむ！  心理学の基礎から臨床まで、オーソドックスな教育をベースに、一人ひとりの長所を伸ばし、将来の可能性を広げます。
教育力 (ブランド力)	中期目標	1) 学科の魅力発信 2) 学生指導力の向上 3) 国家資格対策：公認心理師合格のためのシステムを検討・構築。 4) 学力向上： ①より多くの学生に心理学検定受験を促すとともに、受験者全員に1級以上を取得させるよう取り組む積極的な学習態度の涵養と、わかりやすい講義の実践，的確な履修指導により，平均GPA2.5を目指す。 ②積極的な学習態度の涵養と，わかりやすい講義の実践，的確な履修指導により，平均GPA2.5を目指す。 5) 就職率100%の達成：動機づけを高め100%を目指す。
	施策	1) 学科の魅力発信 ・学科ブログの充実等により、広報活動を積極的に行う。 2) 学生指導力の向上 ・特に1年次生への対応を強化する。具体的には、志知キャンパスへの日帰り研修(田植え&収穫祭参加)の実施など、野外での共同活動を促進し、大学生活への適応を促す。 3) 国家試験対策 ・公認心理師に関する情報の収集と、受験対策としてのコース制の検討、および、カリキュラムにおける講義科目の見直しと、実習科目の検討を行う。 4) 学力向上 ・心理学検定1級取得の方向づけ強化を、新カリキュラムの中にかにに取り込むかを検討する。 5) その他 ・学生への積極的関与のあり方を検討し、学修のみならず、進路・就職等についても、個別な指導・支援の実施に結びつける。
	(H29)	◆ 施策 1-5)の継続・推進。学生サポート体制の充実を目指す。 ・ 施策3) 国家資格対策として、上記施策を継続するとともに、卒業後の実務経験先の確保(あわせて、学生への就職斡旋)に向けた取り組みを開始する。卒業後の受験対策指導についての検討も開始する。 ・ 施策4) 学力向上に関しては、心理学検定1級取得への指導をさらに徹底し、ほぼ全学生が受験するよう取り組むとともに、学生の個別指導の徹底を図る。その中で、自律的・積極的な学習態度・学習習慣を涵養を目指す。
	(H30)	◆ 施策 1-5)の継続・推進。前年度に続き、上記施策を、よりきめ細やかに、可能な限り、学生一人一人に応じた形で実施。



ビ ジ ョ ン (人材養成)		<p>子どもの心理・子育ての心理に精通した子育てのスペシャリストを養成！</p> <p>心理学をベースとした保育・教育・児童家庭福祉の学びと、大学周辺の里山を活用した子どもたちとのふれあい体験学習を通して、子育てのスペシャリスト(保育者・教育者)を養成します。</p>
教育力 (ブランド力)	中期目標	<p>1) 学科の魅力発信 2) 学生指導力の向上 3) 100%の就職率を目指す。 4) 学力の向上(平均GPA2.5以上)を目指す。</p>
	施策	<p>(H28)</p> <p>1) 学科の魅力発信 ・ 学科教育の特色である「里山総合演習」や「子育てカレッジ」の取り組みを充実させるとともに、魅力のアップールとして広報活動(高校配布用パンフの作成配布、T.V.新聞等マスメディアへのアップール等)を重点的に行う。 ・ 学科の現状紹介や動向、卒業生・在学生の現状報告等を掲載した、「学科ニュースレター」を作成し、学生の出身高校へ配布する。(高校と学科とのパイプ作りと信頼関係の強化)</p> <p>2) 学生指導力の向上 ・ 1, 2年次においては、基礎学力の向上を図るとともに、学科特有のフィールド演習等を通じた学生同士(同輩・先輩・後輩)の友好・相互援助的な人間関係を構築するとともに各教員との信頼関係を強化し、プライド・アイデンティティの形成や自尊感情の醸成を図り、学習意欲の維持強化と学生生活への適応力を涵養する。 3, 4年次には、形成された自己効力感や自己有用感をベースとして、専門職への理解の深化と動機づけ・イメージ作りを行い、将来への目標を持たせる。</p> <p>3) 就職率100%の達成について ・ 入学当初より、専門職への動機づけ・イメージ作りを行い、学習意欲の維持強化と自己能力感の醸成を図る。 ・ キャリアサポートセンターと緊密に連携し、100%の就職率を目指す(保育・初等教育等専門職9割以上) ・ 自立的・積極的な学習態度・学修習慣を身につけさせ、学力の向上を図り(平均GPA2.5以上)、就職採用試験に対応できる能力を涵養する。</p> <p>4) 学力の向上対策 ・ 1, 2年次の必修科目「子ども総合演習 I ~IV」において、リメディアル学習による基礎学力(読解力や思考力、発表表現力等)の向上を図るとともに、自立的・積極的な学習態度・学修習慣を身につけさせ、教養・専門領域における学力の向上を図る(平均GPA2.5以上)。</p> <p>5) 新教育カリキュラムの検討 ・ 学科の教育カリキュラム(科目構成、年次配当等)の見直しを行い、保育・教育実践力の強化ならびに教員採用試験合格率の向上を目指す。</p>
	(H29)	<p>◆ 施策 1-5) の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。 ・ ※施策5) の新教育カリキュラムを導入し、保育・教育実践力の強化ならびに教員採用試験合格率の向上を目指す。</p>
	(H30)	<p>◆ 施策 1-5) の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。 ・ ※施策5) の新教育カリキュラムによる保育・教育実践力の強化ならびに教員採用試験合格率の向上を目指す。 ・ 地域における子育て支援力の養成</p>
その他	中期目標	<p>学科が地域貢献の一環として取り組む、各種「子育てカレッジ事業」への積極的参加を通じて、企画力や実践力を涵養し、地域における子育て支援力の涵養を図る。</p>
	施策	

ビ ジ ョ ン (人材養成)		<p>地域で、アニメの夢を実現しよう！</p> <p>アニメーションの制作・文化・プロデュースをトータルに学び、映像文化の新たな担い手を養成します。</p>
教育力 (ブランド力)	中期目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) アニメーションの制作・文化・プロデュースを、トータルに、しかも質の高いレベルで学べるような学科の構築を目指す。</li> <li>2) アニメーションの世界で、国際的に活躍できる人材を育てる。</li> <li>3) 学科の魅力発信</li> <li>4) 就職率100パーセントを目指す。</li> <li>5) 学生指導力の向上</li> </ol>
	施策 (H28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教員の教育力・実践力の向上を目指す。</li> <li>2) 学科内での実践的な国際交流を図るために、日本人学生と留学生とによる共同作業の機会を増やす。 例えば「映像概論」と「撮影光学」の授業では、日本人学生と留学生が協力して短編の実写作品を作っており、国際交流の実践的な場となっている。</li> <li>3) インターネットやメディアでの学科の露出を積極的に図る。 アニメーションを通じて、高校との交流を強化する。 岡山理科大学附属高校以外に、今年度より新見の共生高校にもアニメコースが出来るのため、今春からはこれら2校との交流を実施する予定である。</li> <li>4) 就職率100パーセントを目指す。</li> <li>5) きめ細やかな学生支援・学生指導を継続する。</li> </ol>
	(H29)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施策 1-5)の継続・推進。</li> <li>◆ 新規施策</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>6) 今年度、完成年度を迎えるので、新たなカリキュラムを検討する。</li> <li>7) 新しいカリキュラムを検討する際には、外部の優れた人材の活用を考えたい。 アニメスタジオ等との広範囲にわたる協働関係の構築を進める。</li> </ol>
	(H30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施策 1-7)の継続・推進。</li> <li>◆ 新規施策</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>8) 新しいカリキュラムの実施。</li> <li>9) アニメスタジオ等において、学生のインターンシップを実施。</li> </ol>

研究力	中期目標		1) 科研費の獲得に努める。 2) 東アジアを中心に、アニメーションの教育・研究・制作に関する国際的なネットワークの構築を目指す。
	施策	(H28)	1) H27年度学科内に2名の科研費獲得者がいたが、H28年度もその数を維持するよう努力する。 2) 中国の黄岡師範学院との、教育・研究面での交流強化を図る。
		(H29)	◆ 施策 1-2)の継続・推進 ◆ 新規施策 3) 黄岡師範学院以外にも、インドネシアの大学とも教育・研究面での交流を図る。
		(H30)	◆ 施策 1-3)の継続・推進 ◆ 新規施策 4) 海外の大学との交流に関して、教育・研究面に続いて、アニメーション制作の技術面においても実質的な交流を図る。
地域連携力	中期目標		1) 高梁市をはじめ近隣の市町村との様々な連携事業を、行政・企業・市民の各レベルにおいて継続・拡大する。
	施策	(H28)	1) 学科教員が関わる形で、アニメーション「天地無用！」の新しいシリーズが、総社市を舞台に始まる予定である。 2) 高梁市内にアニメスタジオが出来る予定であり、それが実現すれば、「地方におけるアニメーションの可能性」が現実的なものとなる。 高梁市とアニメスタジオと本学科との協働による、アニメを用いた地域活性化の方法を探る。 3) 「ゲームジャム高梁」の継続開催。
		(H29)	◆ 施策 1-3)の継続・推進 ◆ 新規施策 4) 高梁市、アニメスタジオ、本学科との協働による、子ども向けのワークショップを開催する。
		(H30)	◆ 施策 1-4)の継続・推進 ◆ 新規施策 5) アニメスタジオと本学科との協働による、地域に関わるアニメーションの制作。

<p>ビジョン (人材養成)</p>	<p>農と食と地域の未来を拓く ～新たな挑戦～</p> <p>淡路島から始まる、あなたと地域の未来。ここにしかない農・食の学びで地域創成のリーダーを養成します。</p>	
	<p>中期目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本学部では、農業生産、加工、流通全般にわたる知識、技術、行動力、創造力を身につけ、我国や国際社会に貢献できる有為な人材を養成することを目的としている。本中期目標期間においてもこの目的を達成するための努力を継続する。</li> <li>2) 本学部は、平成25年4月に設置されたばかりであり、現時点では、世に誇りうるブランド力を得るには至っていない。高いブランド力とは、教育力や研究力の一方あるいは両者において卓越した力があることを世に認めさせることである。ブランド力のアップを目指して教育と研究の質の向上に努める。</li> <li>3) 本学部教員は、上述の目標を持って教育に取り組んでいるところであるが、カリキュラム等に関して改善すべき点がいくつか指摘されている。完成年度が過ぎる平成29年度には、これまでの経験と反省を踏まえて改善される予定の新たなカリキュラムを提供する。本学には「国際大学」の冠が付されており、国際的に活躍できる人材の養成は必須の課題である。この視点に立って、英語教育のレベルアップを目指す。</li> <li>4) 学部の魅力発信については、教育力、研究力に裏づけされたブランド力と連関しているが、ブランド力の向上を待っているだけでは本中期目標期間内での向上は望めない。そこで、教育力、研究力、ブランド力以外での学科の魅力発信の方策を見出し、実行する。</li> <li>5) 教職員は、本学部の将来を見据え、教育、研究に勤しまなければならない。激しく変化する社会情勢を的確に捉え、本学部の将来を構想する。</li> <li>6) 建学の理念を踏まえ、教職員一同が一体化した教育活動(学習指導、研究指導、生活指導)を実践する。</li> </ol>
<p>教育力 (ブランド力)</p>	<p>施策 (H28)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本学および本学部の人材養成の理念に沿った教育が行われているか否かを、学部教員会議(全専任教員)で論議する。行われていない場合には直ちに対策を講ずる。また、学生による授業評価も参考にする。</li> <li>2) ブランド力のアップには、教育、研究において他大学農学部との優位性を明確にすることが肝要である。きわめて難しい課題であるが、教員会議での論議を通じて当面の施策を構築する。</li> <li>3) カリキュラム上の問題点を明らかにするとともに、これらを反映させた新たなカリキュラムを作成する。本件に関しては、平成27年度より検討を始めており、6月下旬までには結論を導く予定である。中でも、学生の英語力の向上は本学部のブランド力を高めるための基本事項であると考えている。</li> <li>4) 平成27年度より、学科の魅力発信の向上を目指して、ワーキンググループを設置し、入学者に対する聞き取り調査(入学の決め手になった理由等)や入学辞退の原因分析を行っている。これまでのところ、教員の高校訪問が重要であり、その際、教師に本学入学に対する安心感や、立派な農学部であることを強調する必要のあることなどが結論づけられている。平成28年度も上述の調査を継続して実施し、データを集積するとともに、その解析を通じて学科の魅力発信向上のための施策をさらに考える。また、本学部独自のパンフレットを作成し、高校に配布する。なお、淡路島内高校からの本学部入学者は期待に反してかなり少ない。積極的な高大連携活動(出前授業や高校生シンポジウムの開催等)を通じてこれら高校に本学部の魅力を伝える。</li> <li>5) 「社会情勢」と「社会から要請される学生像」の変化を的確に捉え、学部内教員会議で議論を通じて、これに応じた教育を実践する。</li> <li>6) 担任(チューター)以外の学生にも気軽に話しかけるなど、教員と学生の距離を縮める努力をし、学生にとって満足度の高い学部となるよう努力する。また、「さなぶり」や「収穫祭」を開催し、教員、学生、事務職員間の相互理解を図るとともに、他学部職員、学生との交流を深める。</li> </ol>

教育力 (ブランド力)	施策	(H29)	<p>◆ 施策 1-6)の継続・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策3)平成28年度に作成した新規カリキュラムをスタートさせる(対象1年生)。同時に、問題点がないか、検討する。</li> </ul>
		(H30)	<p>◆ 施策 1-6)の継続・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策2)新規カリキュラムの改善点を検討する。</li> <li>・ 施策3)ブランド力のアップには、教育、研究において他大学農学部との優位性を明確にする必要がある。きわめて難しい課題であるが、教員会議での論議を通じて当面の施策を構築したい。</li> </ul>
研究力	中期目標		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 農業技術分野(植物育種学、栽培学、植物病理学)、食品化学・加工学分野、農業経済・経営学分野、地域創成学分野それぞれにおける研究の質の向上を図る。</li> <li>2) 本学部全体として、「近畿大学養殖マグロ研究」に匹敵する、あるいは近づけるブランド研究を模索する。</li> <li>3) 大学教員は、成果の公表なくして、研究を語ることはできない。このため、論文公表を推進する。また、学術協会活動を積極的に行う。</li> <li>4) 科研費や科研費以外の外部資金の獲得を積極的に行う。</li> <li>5) 本学部は、南あわじ市志知松本地区に農場を所有しているが、畑作物の栽培には種々不都合が生じている。本中期目標期間に、畑作物用の新たな農地の取得と整備を目指す。</li> <li>6) 本学部発淡路島特産品の開発研究を行う。</li> </ol>
		施策	(H28)
	(H29)		<p>◆ 施策 1-6)の継続・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策5)畑作物栽培用農地を取得する。また、できれば、ガラス室1棟を設置する。</li> </ul>
	(H30)		<p>◆ 施策 1-6)の継続・推進</p>

地域連携力	中期目標	<p>1) 南あわじ市と締結した8つの研究会(地域特産農作物栽培・育種研究会、植物クリニック研究会、機能的食品開発研究会、農業・農村6次産業化研究会、農作物・食品輸出拡大研究会、森林資源保全研究会、あわじ人口減少問題研究会、地域ブランド食品創作研究会)を中心に、南あわじ市における諸問題の解決法を探る。</p> <p>2) 兵庫県、南あわじ市、洲本市、淡路市との連携活動を実施する。</p> <p>3) 市民公開講座、高校生向けシンポジウム、地元小・中・高校への出前授業などを積極的に行う。</p> <p>4) 地(知)の拠点事業を発展させる。</p>	
	施策	(H28)	<p>1) 南あわじ市と締結した8つの研究会(地域特産農作物栽培・育種研究会、植物クリニック研究会、機能的食品開発研究会、農業・農村6次産業化研究会、農作物・食品輸出拡大研究会、森林資源保全研究会、あわじ人口減少問題研究会、地域ブランド食品創作研究会)の活動を推進すし、年度末に成果発表会を開催する。</p> <p>2) 兵庫県と連携して淡路未来島構想および食と農に関するセミナー等における助言、活動を行う。</p> <p>3) 地元小・中学校および連携高校への出前授業(10回)、実験指導(3回)などを行う。</p> <p>4) 地(知)の拠点事業を発展させる。南あわじ市民に対する市民公開講座を3回、生涯学習講座を6回実施する。</p>
		(H29)	◆ 施策 1-4)の継続・推進
		(H30)	◆ 施策 1-3)の継続・推進

ビジョン (人材養成)		日本の文化・歴史に関する知識と英語力を身につけ、世界へ飛翔しよう！ ジャパNSTAディ・英語コミュニケーション力・海外留学をベースに一人ひとりの力を開発し、グローバル社会で活躍できる人材を養成します。	
教育力 (ブランド力)	中期目標	1) 学生の能力を的確に把握し、最善の努力で最大の能力を引き出し引き伸ばす。 2) 自ら動く学生として積極、果敢な行動力を引き出し引き伸ばす。 ★新設学科として独自の文化を創出する。	
	施策	(H28) 学生の英語力、英語以外の学力を確認し、適切な教育方法を見出し改善する 1) 外部テスト(年2回)、学内模試(年3回)の実施 2) 英語による課外活動の実施 3) 日本人として知っておいてほしいことを体験的に学ぶ場を設ける。 4) アクティブラーニングを取り入れた授業の推進、養育方法の検討。各授業へのタブレット端末の導入を検討する。 ↓ 5) 学生の能力にあった教育方法の開発 6) 就職対策の検討・実施	
		(H29)	◆ 施策1-4)の継続・推進 ◆ 新規施策 7) 英語学習カウンセリングを行い自学自習する学生の個性にあった適切な指導を行う。 8) 英語以外の学習カウンセリングを行い自学自習する学生の個性にあった適切な指導を行う。
		(H30)	◆ 施策1-8)の継続・推進 海外交流活動、ボランティア活動、部活、サークル活動などを支援・推進し、自ら動く学生を支援する。 ◎建学の理念に則った、学科ならではの体験と満足度を学生に供与できるように常に改善に努める。
研究力	中期目標	1) 学生の能力に適合した効果的な教育方法を研究開発し、改善に努める。 2) 各教員が個性を活かした研究成果を追究して学生の探求心を引き出し、引き伸ばす。	
	施策	(H28) 1) 教員各自が授業改善に取り組む。	
		(H29)	◆ 施策1)の継続・推進 ◆ 新規施策 2) 研究する姿勢を見せる教育に向けて、教員の研究を学生に知らしめる。
		(H30)	◆ 施策1-2)の継続・推進 ◆ 新規施策 3) 前2年の成果を踏まえて教材開発。／共同研究に着手する。

地域連携力	中期目標	1) 地域に対する学生の関心を高め、地域を知り、地域に働きかける力を引き出す。 2) 地域の人々と連携して行動する力を身に着ける。
	施策	(H28) 1) 地域と人を知るために見学、インタビュー等の機会を設ける。
		(H29) ◆ 施策1)の継続・推進 ◆ 新規施策 2) 地域ボランティア活動の奨励。
		(H30) ◆ 施策1－2)の継続・推進 ◆ 新規施策 3) 地域の魅力や外国学科の活動を広報する力を身に着ける。
その他	中期目標	新設学科であるので中期計画は問題点の発見と改善とに注力する。
	施策	



ビジョン (人材養成)		自己の可能性を信じ、チャレンジするあなたへ！ 「仕事・家庭」と「学び」を両立させ、子育てのスペシャリストをめざす！  心理学をベースとした保育・教育・児童家庭福祉の学びで、子どもの心理・子育ての心理に精通した子育てのスペシャリスト(保育者・教育者)を養成します。
教育力 (ブランド力)	中期目標	1) 学科の魅力発信 2) 学生指導力の向上
	施策	(H28) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学科の魅力発信                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や仕事をキープしながら保育や初等教育を学び、「大学卒業資格」や「保育士資格」、「教員免許の取得」を目指すことができる通信教育の魅力ならびに、在学生・卒業生の体験情報等を各種広報によりアピールする。</li> <li>・保育所(無認可も含む)、幼稚園、認定こども園、小学校の保育、初等教育機関、通信制高校等へインテンシブに広報活動を展開する。</li> <li>・学修環境の利便性を図るため、通信教育における潜在的ニーズが大きい大都市周辺(広島・関西地域等)におけるスクーリング会場(常設)の設置を推進する。</li> </ul> </li> <li>2) 学生指導力の向上                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の学生の学修環境や状態を十分把握し、無理のない学修計画づくりのアドバイスやきめ細かい支援を行うために、教員の学年担当制の導入を推進する。</li> <li>・学生としてのアイデンティティを持つことができるよう、スクーリング時には、参加学生達が情報交換や交流を行うことができるような時間の設定や場所の設置を推進する。</li> <li>・科目担当教員がWEB学修支援システムを有効に使用し、学生の学修状況の把握と支援に努めることにより、学習意欲の衰退を防ぐ。</li> </ul> </li> <li>3) 新教育カリキュラムの検討                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科の教育カリキュラム(科目構成、年次配当等)の見直しを行い、保育・教育実践力の強化を目指す。</li> </ul> </li> </ol>
	(H29)	◆ 施策1-3)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成と維持強化に努める。 ・ ※施策3)の新教育カリキュラムを導入し、保育・教育実践力の強化ならびに教員採用試験合格率の向上を目指す。
	(H30)	◆ 施策1-3)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成と維持強化に努める。 ・ ※施策5)の新教育カリキュラムによる保育・教育実践力の強化ならびに教員採用合格率の向上を目指す。

大 学 院

社会学研究科

ビジョン (人材養成)		<p>現代社会の課題に知的チャレンジで立ち向かう！</p> <p>社会の変革をとらえ、時代が要請する課題に対して知的チャレンジを続ける、グローバル社会で活躍する人材を養成します。</p>	
教育力 (ブランド力)	中期目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 比較社会学、地域社会学、産業社会学、スポーツ社会学の分野において高度な専門的な知識を活用する能力を身につける人材を養成する。</li> <li>2) 自ら成長し、グローバル社会と地域社会に社会貢献ができる人材を養成する。</li> <li>3) 研究科の魅力発信と留学生の日本語能力の向上を目指す。</li> </ol>	
	施策	(H28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究科の魅力発信のために、社会のニーズに応える教育の実現と院生の満足度が高い学習体制を構築し、入学から修了まで安心して研究ができる指導体制を構築する。</li> <li>2) 全教員が積極的に研究科の魅力を発信する。</li> <li>3) 全教員のオフィスアワーを活用することにより院生が抱えている悩みを早期に把握し、解決し、学生サポート体制の充実を図る。</li> <li>4) 留学生の日本語能力向上のために、日本語教育に力を入れ、修了時にはN1に合格できるようにする。</li> </ol>
		(H29)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施策1-4)の継続・推進</li> <li>◆ 新規施策</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>5) 院生1人ひとりの学びに応える研究環境を提供するために、自主学習を支援する研究室の完備と副指導教員の指導体制を構築する。</li> <li>6) 自ら成長し、修了後も自主的に研究ができるようにするため、院生の研究力を高める充実した教育をする。</li> </ol>
(H30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施策1-6)の継続・推進</li> <li>◆ 新規施策</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>7) 社会学研究科論叢に在学生、OB、OGが平成28年度から平成30年度の間に3編以上の論文を投稿する。</li> </ol>		
研究力	中期目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教員は自由且つ自律的な研究活動を推進する。</li> <li>2) 地域、日本、世界のニーズに対応する研究を推進する。</li> <li>3) 学術研究助成金、科学研究費補助金の申請・採択件数の向上。</li> </ol>	
	施策	(H28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教員は年間1回以上、学会(全国大会)に参加し、新しい情報を入手・発信する</li> </ol>
		(H29)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施策1)の継続・推進</li> <li>◆ 新規施策</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 学術研究助成金、科学研究費補助金の申請・採択件数向上のため、採択者の研究環境を改善し、研究しやすい環境を提供する。</li> <li>3) 研究成果を教育に反映し、研究と教育の融合を促進する。</li> </ol>
(H30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施策1-3)の継続・推進</li> <li>◆ 新規施策</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>4) 全教員が平成28年度から平成30年度の間に1編以上の論文を投稿する。</li> </ol>		

保健科学研究科

ビジョン (人材養成)		保健科学の専門領域の疑問を研究で解く！  優れた研究環境と細やかな研究指導体制によって、保健科学領域をリードする教育研究者と専門職者を養成します。	
教育力 (ブランド力)	中期目標	1) 研究科の魅力の発信。 2) きめ細やかな研究指導体制の充実をはかる。 3) 社会人も学べる研究環境の充実をはかる。 4) 学部と大学院の一貫教育を行う。 5) 看護分野では専修免許取得のための門戸を広げる。  ↓ 保健科学の専門分野での新たな研究へのチャレンジ	
	施策	(H28)	1) 保健科学専門領域での研究初学者の発掘(目標1) 研究科の魅力発信/大学院進学の入学相談会の開催/臨床実践者との共同研究の推進 2) 保健科学研究領域での指導体制の充実(目標2・3・4) 主指導教員1名、副指導教員2名の指導体制での研究指導の充実/社会人が履修しやすく学習環境の充実 3) 保健科学領域の教育システムの洗練化(目標5) 学部生の大学院一貫教育の充実/専修免許の取得のための履修指導のシステム化(看護領域)
		(H29)	◆ 施策1-3)の継続・推進 ・前年度の結果分析に基づき、対策を精緻化(施策1・2・3) ・本学の地域性を生かした共同研究の推進 ◆ 新規施策 4) ホームページなどで研究科の魅力を積極的に発信する。
		(H30)	◆ 施策1-4)の継続・推進 ・前年度の結果分析に基づき、対策を精緻化(施策1・2・3) ◆ 新規施策 5) 研究科の魅力を更に発信する。
研究力	中期目標	1) 教員は自由且つ自律的な研究活動を推進する。 2) 地域、日本、世界のニーズに対応する研究を推進する。 3) 学術研究助成金、科学研究費補助金の申請・採択件数の向上。	
	施策	(H28)	1) 保健福祉研究所の見学会を1回/年実施 2) 保健福祉研究所と連携し、講演会を1回/年実施 3) 保健科学研究科のFD研修会を1回/年実施
		(H29)	◆ 施策1-3)の継続・推進 ・前年度の結果分析に基づき、対策を精緻化
		(H30)	◆ 施策1-3)の継続・推進 ・前年度の結果分析に基づき、対策を精緻化

ビジョン (人材養成)		<p>福祉の学びで希望社会への道を拓く！</p> <p>生活者の目線から人間性の復権と格差・排除の克服の可能性を探求し、福祉・ケアのリーダーを養成します。</p>	
教育力 (ブランド力)	中期目標	<p>1) 研究科の魅力発信</p> <p>2) 院生への研究指導のグレードアップ(留学生の日本語能力の向上を図る)</p> <p>3) 社会福祉学以外の近接領域からの入学者への学修サポート</p> <p>4) 本研究科の魅力をアピールする地域社会貢献と連動した広報活動の企画と展開</p>	
	施策	(H28)	<p>1) 学科の魅力発信(九保との連携強化, 社会福祉学以外の出身者を含む), 県内向けの広報(認証社会福祉士・認定科目の科目等履修の広報)</p> <p>2) 在学院生全員への研究倫理に関するグループ指導の企画・実施。</p> <p>3) 社会福祉学以外の入学者への学修サポートの向上(サポート科目の大学院カリキュラムへの組み込みの可能性を企画)</p> <p>4) 国際講演会の広報を充実させ地域社会との交流を深める</p>
		(H29)	<p>◆ 施策 1-4) の継続・推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策2) 研究倫理指導の効果検証・改善。</li> <li>・ 施策4) 国際講演会について地元メディアへの広報はたらきかけ体制を整備。</li> </ul> <p>◆ 新規施策</p> <p>5) 研究科ブランド力として教員・院生の研究活動を地域社会貢献として積極的に発信。</p>
		(H30)	<p>◆ 施策 1-5) の継続・推進。</p> <p>◆ 新規施策</p> <p>6) 国際講演会の抄録集の編集・web等での公開</p>
研究力	中期目標	<p>1) 学会等での研究発表への奨励</p> <p>2) 外部競争的研究資金(科研費およびその他の研究助成)への申請の定着・獲得</p> <p>3) 九州保健福祉大学(通信制)連合大学院との共同編集・査読付き研究誌『最新社会福祉学研究』刊行・同誌の学外へのアピール</p>	
	施策	(H28)	<p>1) 教員の学会等研究発表・院生の参加/発表の活性化</p> <p>2) 科研費等の申請時の教員間の相互サポートを試行(申請への組織的なサポート)</p> <p>3) (査読付)研究誌の刊行</p>
		(H29)	<p>◆ 施策 1-3) の継続・推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策2) 申請についての組織的な相互サポートの効果検証・改善。</li> </ul> <p>◆ 新規施策</p> <p>4) 教員の研究力と教育力の調和向上。</p>
		(H30)	<p>◆ 施策 1-4) の継続・推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策4) の効果検証。</li> </ul>
その他	中期目標	<p>1) 県内の福祉・ケア職関連団体および自治体・NPO等との交流機会の新規開拓</p>	
	施策	<p>1) 県内の学外交流・共同研究プロジェクト等の立案・資金確保・評価検証</p>	

ビジョン (人材養成)		<p><b>認識 — この時空を超えた壮大な心のロマンに迫る！</b></p> <p>心理的な事実に対して客観的な方法を用いて論理的な解釈・予測・推論のできる心理の専門家を養成します。</p>	
教育力 (ブランド力)	中期目標	<p>&lt;教育力&gt; (修士課程)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 修士論文の質的向上を図るための取り組みを行います。</li> <li>2) 研究指導体制の充実を図ります。</li> <li>3) 研究過程を通して、その成果を各種分野(例えば、人間工学、福祉、産業・組織・人事・管理等)に応用できる心理学の専門家を養成します。</li> </ol> <p>(博士(後期)課程)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4) 心理学の研究者として、自立的な研究活動を行うことのできる能力と学識をもった専門家を育成します。</li> </ol> <p>&lt;研究科の魅力発信&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5) 積極的に研究科の魅力を発信します。</li> </ol>	
	施策	(H28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「心理学検定」の受験の勧め、検定一級の獲得を目指します。</li> <li>2) 研究指導体制における副指導の役割を、従前よりも明確にし、増大させます。</li> <li>3) 心理学的研究技法が活かせる職域を探索します。</li> <li>4) 院生(修士・博士)に対しては、懇切丁寧に粘り強く指導を行っていきます。</li> <li>5) 学内にあっては、留学生への大学院進学への奨励、及び心理学の知見・方法の面白さの実感を高めるよう努めます。</li> </ol>
		(H29)	<p>◆ 施策 1-5) の継続・推進</p> <p>◆ 新規施策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6) 入試広報室と緊密に連絡を取り合い、大学院説明会の充実を努めます。</li> </ol>
		(H30)	<p>◆ 施策 1-6) の継続・推進</p> <p>◆ 新規施策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7) 本学以外でもかなりの数の修了生を輩出している九州保健福祉大学等、情報交換をする組織づくりを模索します。</li> </ol>
研究力	中期目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学院担当教員が、自律的かつ闊達な研究意欲を増進するよう努めます。</li> <li>2) 国際大学の心理学研究科として、海外の研究室と共同研究を推進します。</li> </ol>	
	施策	(H28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学院担当教員は、年間に1回以上の学会発表、1編の論文作成をノルマとして課します。</li> <li>2) 昨年度(平成27年度)に提携した、内モンゴル財形学院大学との折衝を始めます。</li> </ol>
		(H29)	<p>◆ 施策 1-2) の継続・推進</p> <p>◆ 新規施策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3) 学術研究助成金の獲得に努めます。</li> </ol>
		(H30)	<p>◆ 施策 1-3) の継続・推進</p> <p>◆ 新規施策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4) 平成27年度に提携した、内モンゴル財形学院大学との共同研究の成果を報告書の形でまとめます。</li> </ol>

ビジョン (人材養成)		<p>Kibi Mind で人々の精神的健康を支える！</p> <p>臨床心理学領域及びその関連領域の専門性と技能を持ち、広い視点を有する実践家を養成します。</p>	
教育力 (ブランド力)	中期目標	<p>&lt;教育力&gt;</p> <p>1) 修士論文の質的向上を図るための取り組みを行います。</p> <p>2) 研究指導体制の充実を図ります。</p> <p>3) 臨床理論・技術に関して高水準の「こころ」のケア専門家を養成します。</p> <p>&lt;研究科の魅力発信&gt;</p> <p>4) 積極的に研究科の魅力を発信します。</p>	
	施策	(H28)	<p>1) 「心理学検定」の受験の勧め、検定一級の獲得を目指します。</p> <p>2) 研究指導体制における副指導の役割を、従前よりも明確にし、増大させます。</p> <p>3) 臨床心理実習に力を注ぎます。</p> <p>4) 臨床心理士の合格率の向上、法制化された公認心理師資格のためのカリキュラムの草案を検討していきます。</p>
		(H29)	<p>◆ 施策 1-4) の継続・推進</p> <p>◆ 新規施策</p> <p>5) 公認心理師資格が取得できるためのカリキュラムを決定します。</p>
		(H30)	<p>◆ 施策 1-5) の継続・推進</p> <p>◆ 新規施策</p> <p>6) 公認心理師資格取得に向けた大学院教育を実施します。</p>
研究力	中期目標	<p>1) 大学院担当教員が、自律的かつ闊達な研究意欲を増進するよう努めます。</p> <p>2) 国際大学の心理学研究科として、海外の研究室と共同研究を推進します。</p>	
	施策	(H28)	<p>1) 大学院担当教員は、年間に1回以上の学会発表、1編の論文作成をノルマとして課します。</p> <p>2) 昨年度(平成27年度)に提携した、内モンゴ財形学院大学との折衝を始めます。</p>
		(H29)	<p>◆ 施策 1-2) の継続・推進</p> <p>◆ 新規施策</p> <p>3) 学術研究助成金の獲得に努めます。</p>
		(H30)	<p>◆ 施策 1-3) の継続・推進</p> <p>◆ 新規施策</p> <p>4) 平成27年度に提携した、内モンゴ財形学院大学との共同研究の成果を報告書の形でまとめます。</p>

ビ ジ ョ ン (人材養成)		<p style="text-align: center;"><b>世界共通の遺産「文化財」を守る！</b></p> <p>文化財の保存や修復に関する科学的知識や高度な技術を有し、文化財の保存や修復に貢献できる人材を養成します。</p>	
教育力 (ブランド力)	中期目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 文化財に係る西洋・東洋・文書典籍分野の修復技術者や文化財修復科学者、博物館学芸員ら専門家養成のため、各専門分野ごとに完結するカリキュラム改正を行う。</li> <li>2) きめ細やかな研究指導体制の充実を図る。</li> <li>3) 修復分野における実習や実験を重視すると同時に、実技面での短期研修インターンシップ受け入れ規定を整備し、社会人や他大学生らが学べる環境づくりを行う。</li> <li>4) 研究科の魅力を発信する。</li> </ol>	
	施策	(H28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 現状のカリキュラムを見直します。</li> <li>2) 研究指導体制における副指導教員の役割をこれまで以上に明確化し、増大させる。</li> <li>3) インターンシップ受け入れプログラムを作成し、規定を整備する。</li> <li>4) 文化財総合研究センターを最大限に活用する。見学会や地(知)の拠点整備事業などの成果公表、他地域での公開修復、他大学等との交流などを通じて存在をアピールする。</li> </ol>
		(H29)	<p>◆ 施策1-4)の継続・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策1) 改正カリキュラム(2018カリキュラム)を作成する。</li> <li>・ 施策2) 教員全体で大学院生の自主学習を支援する指導体制を構築する。</li> <li>・ 施策3) インターンシッププログラムの広報に努める一方、就職支援につながるインターンシップなどへの大学院生の参加を推進する。</li> <li>・ 施策4) 前年度実施事業への自己点検・評価を行い、より実効性のある内容を検討する。</li> </ul>
		(H30)	<p>◆ 施策1-4)継続・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策1) 2018カリキュラムを施行と、平成30年度実施科目のチェック・評価を行う。</li> <li>・ 施策2・3・4) チェック・評価を行い、実績と成果を報告・公開する。</li> </ul>
研究力	中期目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教員は自由且つ自律的な研究活動を推進する。</li> <li>2) 地域、日本、世界のニーズに対応する研究を推進する。</li> <li>3) 科学研究費への申請、委託業務的な活動に対する補助金・助成金等への応募を積極的に行い、採択率を上げる。</li> </ol>	
	施策	(H28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教員は自身が手がけた修復の成果物や研究実績をさまざまな形で積極的に公表すると同時に、それを大学院生の研究力向上に連結させる。</li> <li>2) 修復実務者と分析科学者とが共存する日本唯一の大学である利点を活かすために従前以上に教員相互の連携を密にして地域のニーズに敏感に反応する。</li> <li>3) 外部資金導入のための申請や応募が円滑に進むよう日頃から準備する。</li> </ol>
		(H29)	<p>◆ 施策1)の継続・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施策1・2)「地(知)の拠点整備事業」の最終年度であり、成果を展覧会等で実績報告する。</li> <li>・ 施策3) 申請や応募時の組織的な相互サポートの効果を検証し改善する。</li> </ul>
		(H30)	<p>◆ 施策1-3)の継続・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度の結果を分析し、対策をより精緻なものにする。</li> </ul>



(通信制) 社会福祉学研究科 修士課程

ビジョン (人材養成)		福祉の学びで希望社会への道を拓く！  福祉関連領域での現場経験を活かして理論、研究法、専門的知見を学び、経験知と科学的論拠によって課題解決に取り組む、福祉・ケアのリーダーを養成します。	
教育力 (ブランド力)	中期目標	1) 研究科の魅力発信 2) 院生への研究指導のグレードアップ 3) 社会福祉学以外の分野からの入学者への学修サポート 4) 本研究科の魅力をアピールする地域社会貢献と連動した広報活動	
	施策	(H28)	1) 研究科の魅力発信(九保との連携強化, 社会福祉学以外の出身者を含む)。 2) 在学院生全員への研究倫理に関するグループ指導の企画・実施。 3) 通信制院生への学修サポートの選択肢の充実(長期履修生への効果的な支援を含む)。
		(H29)	◆ 施策 1-3)の継続・推進。 ・ 施策2) 研究倫理指導の効果検証・改善。 ・ 施策3) 的確な個別出張指導の学修サポート徹底。 ◆ 新規施策 4) 国際講演会のテーマ設定の工夫によってスクーリングの質的向上を図る。
		(H30)	◆ 施策 1-4)の継続・推進。 ◆ 新規施策 5) 国際講演会の抄録集アピール・web上での公開
研究力	中期目標	1) 学会等での研究発表への奨励 2) 外部競争的研究資金(科研費およびその他の研究助成)への申請の定着・獲得 3) 九州保健福祉大学(通信制)連合大学院との共同編集・査読付き研究誌『最新社会福祉学研究』刊行・同誌の学外へのアピール	
	施策	(H28)	1) 教員の学会等研究発表・院生の参加/発表の活性化 2) 科研費等の申請時の教員間の相互サポートを試行(申請への組織的なサポート) 3) (査読付)研究誌の刊行
		(H29)	◆ 施策 1-3)の継続・推進。 ・ 施策2) 申請についての組織的な相互サポートの効果検証・改善。 ◆ 新規施策 4) 教員の研究力と教育力の調和向上。
		(H30)	◆ 施策 1-4)の継続・推進。 ・ 施策4)の効果検証。

(通信制) 連合国際協力研究科 修士課程

ビジョン (人材養成)		<p>国際協力の探求－21世紀国際社会の多様な課題解決のために！</p> <p>一人ひとりの問題意識を大切にした教育研究を通じて、国際社会の近未来を担う高度国際協力人材を養成します。</p>
教育力 (ブランド力)	中期目標	<p>1) 研究科の魅力発信</p> <p>2) 広報の充実 従来の広報に加えて、2014年に引き続き、JOCA(青年海外協力協会)のSNSなど広報媒体への掲載(青年海外協力隊のOB/OG約2万人対象)、AMDAなどNGO関係団体との連携、卒業生ネットワークのロコミの活用</p> <p>3) 魅力ある教育研究体制の確立 東京スクーリングの評価と定着、学修のプロセス評価の基準作成と周知・徹底、学生の自主勉強会開催支援(教員の参加)、開発途上国の現地調査の支援、学外セミナーなどの活用、1年修了コースの検討</p>
	(H28)	<p>1) 研究科の魅力発信</p> <p>2) JOCA広報媒体の活用継続、AMDAへの働きかけ、卒業生への協力依頼</p> <p>3) H27東京スクーリングの評価</p> <p>4) 学修評価の周知・徹底</p> <p>5) 1年修了コースの制度の検討(事例収集)</p>
	施策 (H29)	<p>◆ 施策 1-5)の継続・推進</p> <p>施策1) 研究科の魅力を積極的に発信</p> <p>施策2) JOCA広報媒体の活用継続、AMDAと他のNGOへの働きかけ、卒業生ネットワークを通じたロコミの推進</p> <p>施策3) 東京スクーリングの定着</p> <p>施策4) 自主勉強会への教員参加の促進</p> <p>施策5) 1年修了コースの検討(メリット・デメリット比較、修了要件案の検討)</p>
	(H30)	<p>◆ 施策 1-5)の継続・推進</p> <p>施策1) 研究科の魅力を積極的に発信</p> <p>施策2) 広報活動の評価</p> <p>施策3) 東京スクーリングの定着と評価</p> <p>施策4) 自主勉強会への教員参加の定着</p> <p>施策5) 1年修了コース制度の準備(募集要項などへの記載など)</p>
研究力	中期目標	<p>1) 科研費などの外部資金の獲得</p> <p>2) 国際開発/協力に関連する学会への参加数の増加</p>
	(H28)	<p>1) 科研費申請</p> <p>2) 学生への学会の参加奨励</p>
	施策 (H29)	◆ 施策1-2)の継続・推進
	(H30)	◆ 施策1-2)の継続・推進
その他	中期目標	同窓会組織の拡充:修了生のフォローを通じた修了生の満足度向上、研究科ネットワークの強化
	施策	同窓会総会、その他活動への教員の積極的参加

ビジョン (人材養成)		<p>リサーチマインド&amp;メソッド 臨床における疑問を研究で解く!</p> <p>臨床実践や業務と両立できる全国唯一の通信制大学院として、高度な臨床研究能力を持つ理学療法士を養成します。</p>	
教育力 (ブランド力)	中期目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実際の仕事と大学院の両立を支援する</li> <li>2) 臨床・教育現場での疑問を解決するための研究活動の支援</li> <li>3) メールだけでなく、無料電話やテレビ電話でのきめ細かい研究指導</li> <li>4) 通学制大学院と協同した教員の教育力向上</li> <li>5) 研究科の魅力発信。全国から大学院生を募集するための理学療法学関連の学会誌、商業誌への広告</li> <li>6) より密で高度な研究指導のための質の高い研究指導體制の確立</li> </ol> <p style="text-align: center;">↓ 通信制のメリットを最大限に生かす 仕事と両立した研究活動を最大限支援する</p>	
	施策	(H28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学院生サポート体制の確立(目標1・2) 入学後からの履修窓口教員配置/複数教員指導體制/指導環境整備</li> <li>2) 仕事と両立した研究活動の支援(目標2・3・4) インターネットを利用したテレビ会議による遠隔指導體制の確立/大学院の研究機器貸与/統計解析ソフトの購入/教員の教育力向上/大学院終了後の論文投稿支援</li> <li>3) 研究科の魅力発信(目標5) 理学療法学関連の学会誌、商業誌への年2回以上の広告/広告内容の洗練化/卒業生への呼びかけ</li> </ol>
		(H29)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施策 1-3)の継続・推進</li> <li>・ 施策2) 大学院生のより高いレベルの研究活動を保証するための教員のFD活動の推進、施策3) 通信制大学院のメリットを最大限広告し、卒業生の投稿実績もアップ</li> <li>◆ 新規施策</li> <li>4) 質の高い研究指導體制の確立(目標6)</li> </ul>
		(H30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施策 1-4)の継続・推進</li> <li>◆ 新規施策</li> <li>5) 研究科の魅力発信についての検証・改善</li> </ul>
研究力	中期目標	<p>理学療法学専攻においては全教員が大学院修士過程の研究指導の格付けを得ているため、教員自身の研究力の研鑽、外部資金獲得による研究環境の向上が大学院生への指導の質の向上につながる。そのことを念頭に以下のことを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教員全員の科研費への応募、採択率の向上</li> <li>2) 教員全員の積極的な学術誌への論文投稿</li> </ol>	
	施策	(H28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科研費への全教員の応募(目標1) 大学全体と共同して採択率向上に向けた研修活動/各教員の採択結果の分析・改善活動</li> <li>2) 教員による学術誌への積極的な投稿(目標2) 研究力向上/大学院生との共同研究/大学院の知名度向上</li> </ol>
		(H29)	◆ 施策 1-2)の継続・推進
		(H30)	◆ 施策 1-2)の継続・推進

ビジョン (人材養成)		<p><b>理論に基づいた作業療法実践！</b></p> <p>臨床実践や業務と両立できる通信制大学院教育を提供し、指導的役割を担う高度専門職としての作業療法士を養成します。</p>	
教育力 (ブランド力)	中期目標	<p>本専攻は全国で唯一の修士(作業療法学)を通信制で取得できる大学院である。現在、臨床・教育領域に勤務する作業療法士において、大学院入学(修士号取得)に対する需要は増える傾向にある。しかし、通常の通学制大学院では勤務体制等の問題で通学できないという現職者も多く、進学に対するニーズに応え得る体制を保持する。また、通信制であるというメリットを最大限生かすことを主軸に以下のことを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教員の教育力向上のために通学制大学院と共同で、大学院教員に対するFD研修会を年に1回実施する。</li> <li>2) 実際の仕事と大学院の両立を最大限支援するために、入学後より研究主指導教員1名、副指導教員2名を配置し、研究活動やレポート、スクーリングに向けての指導を行う。</li> <li>3) 臨床・教育領域での疑問を研究で明らかにするために、大学による統計ソフトの購入支援やオンラインジャーナル、有料検索サイトの利用環境整備を行う。</li> <li>4) 電子メールに加え、グループウェアや無料電話を活用したきめ細かい研究指導を行う。</li> <li>5) より密で高度な研究指導のための質の高い研究指導體制の確立。</li> <li>6) 研究科の魅力発信。通信制であるために、どの地域からでも就業しながら入学が可能であることから、全国から大学院生を募集するために、作業療法関連の学会誌、商業誌への広告を行う。</li> </ol>	
	施策	(H28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 主指導教員、副指導教員間の頻度の高い連絡によって、仕事との両立の問題の解決を図る。</li> <li>2) 大学院修了後も継続的に支援し、修士論文を国内外の学術誌へ投稿する者を増やす。</li> <li>3) 作業療法関連の学会誌、商業誌への広告を年に2回以上行う。</li> </ol>
		(H29)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施策 1-3)の継続・推進</li> <li>◆ 新規施策</li> <li>4) 質の高い研究指導體制の確立(目標5)</li> </ul>
(H30)		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施策 1-4)の継続・推進</li> <li>◆ 新規施策</li> <li>5) 研究科の魅力発信についての検証・改善</li> </ul>	
研究力	中期目標	<p>作業療法学専攻においては、現在、研究指導教員7名、研究補助教員5名、授業担当教員1名の状況である。将来的には全教員が大学院修士課程における研究指導の格付けが得られるよう、教員自身の研究力の研鑽、外部資金獲得による研究環境の向上に取り組むことが、大学院生への指導の質の向上につながる。そのことを念頭に以下のことを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 多くの教員が科研費への応募を行い、採択率の向上を目指す。</li> <li>2) 教員全員が積極的に学術誌への論文投稿を行い、研究力の向上を目指す。</li> </ol>	
	施策	(H28)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科研費への応募数を増やす。</li> <li>2) 国内外の学術誌への積極的な投稿を行う。</li> </ol>
		(H29)	◆ 施策 1-2)の継続・推進
		(H30)	◆ 施策 1-2)の継続・推進

(通信制) 知的財産学研究科 修士課程

ビジョン (人材養成)		<p>日本初！ 通信制による知的財産学の大学院</p> <p>知的創造サイクルに精通した知的財産専門人材、紛争処理や国際取引を把握できる能力を有する人材を養成します。</p>
教育力 (ブランド力)	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 学生支援 Web上の掲示板システムにより、各教員に「随時質問」可能、それ以上に、通信制ではあるが、「スクーリング」による指導が多く、又場合により院生が各教員の「事務所」に出向いて指導を受けるきめ細かな指導がなされている。 その成果の一つとして、平27年度修了生の修士論文要約(7000字)が特許ニュース(経済産業調査会)に掲載された。 また、毎年、特別講演会を3回(特別講座1回、4月に初心者知財入門講座2回「民法」・「知財入門・条約入門」)を開催している。</li> <li>◆ 国家試験対策等 平成24年度から4年連続弁理士試験に最終合格した。合格した弁理士とともに、『知財四法基礎』(「マスターリンク」)を出版(平成27年12月刊行)。国家試験「知的財産管理技能検定試験」においても1級、2級の合格者を出している。</li> <li>◆ 研究科の魅力発信 研究科の魅力を積極的に発信する。PR方法等について対策を検討(今後、商工会議所訪問等)を検討)。</li> <li>◆ 今後の目標 ① 職業実践力育成プログラム(BP)を文科省に申請(結果に関係なく実施)。 ② 現在の知的財産学研究科を知財基礎コース(弁理士免除)と専門実務コースに分けることを検討中。 ③ 岡山大学大学院法務研究科との協力では特別講座を年2回実施し、法務研究生にも知財関係を受講させるよう提携を検討中。他の大学院についても検討中。 ④ 岡山を中心に産業界と知財で連携を計画中(今後、商工会議所まわり等検討)。</li> </ul>
	(H28)	1) 目標の①職業実践力育成プログラムを実施する。
	(H29)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施策1)の継続・推進</li> <li>◆ 新規施策</li> </ul> 2) 目標の②研究科を知財基礎コースと専門実務コースに分けることを実施、③他の大学院等との提携も実施する。
	(H30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 施策1-2)の継続・推進</li> <li>◆ 新規施策</li> </ul> 3) 目標の③、④とも併行して実施する。
施策		

研究力	中期目標		<p>研究科では学外専任(知財弁護士、弁理士等の実務家教員)が多くいるが、各自が様々な論文・学会発表等を行っている。平成26年度「地の拠点整備事業」取組みで、「世界の商標・地理的表示『Budweiser』事件をめぐる各国の動向と我国の農業振興・地域活性化」を申請した(結果は不採択)。</p> <p>各教員は知財に関しては、アメリカ、中国、韓国、EU等の各外国の法制度、判例についても熟知しており、さらに研究を進める。</p>
	施策	(H28)	<p>1) 特別講座開催 「TPPと知的財産権」または「商標と地理的表示をめぐる各国の動向」講座・シンポジウム計画</p>
		(H29)	<p>2) シンポジウム開催 吉備国際大学・華東政法大学共催の日中知財シンポ計画(日本経営実務法学会含む)特別講座開催「テーマ・未定」</p>
		(H30)	<p>3) シンポジウム開催 岡山経済界と連携してシンポを計画「テーマ・未定」、特別講座開催「テーマ・未定」</p>

(通信制) 心理学研究科 博士(後期)課程

ビジョン (人材養成)		日本唯一。通信制大学院で博士(心理学)の学位取得！  客観的かつ科学的な方法論に基づき、意識・行動を対象とした研究活動を自立的に行うことのできる能力と深い学識をもった専門家を養成します。	
教育力 (ブランド力)	中期目標	<p>&lt;教育力&gt;</p> <p>1) 心理学の研究者として、自立的な研究活動を行うことのできる能力と学識をもった専門家を育成します。</p> <p>&lt;研究科の魅力発信&gt;</p> <p>2) 積極的に研究科の魅力を発信します。</p>	
	施策	(H28)	<p>1) 志願者の研究計画を精査し、3年間を期限として博士の学位取得水準に達するか否かを決定します。</p> <p>2) 博士課程1、2年次生に対しては、懇切丁寧に、粘り強く指導を行います。</p> <p>3) 博士課程3年次生に対しては、博士(心理学)の学位が取得できるよう、担当教員は最大限の努力をします。</p> <p>4) 入試広報室と緊密に連絡を取り合い、大学院説明会の充実に努めます。</p>
		(H29)	◆ 施策 1-4) の継続・推進
		(H30)	◆ 施策 1-4) の継続・推進
研究力	中期目標	<p>1) 大学院担当教員が、自立的かつ闊達な研究意欲を増進するよう努めます。</p> <p>2) 国際大学の心理学研究科として、海外の研究室と共同研究を推進します。</p>	
	施策	(H28)	<p>1) 大学院担当教員は、年間に1回以上の学会発表、1編の論文作成をノルマとして課します。</p> <p>2) 昨年度(平成27年度)に提携した、内モンゴ財形学院大学との折衝を始めます。</p>
		(H29)	<p>◆ 施策 1-2) の継続・推進</p> <p>◆ 新規施策</p> <p>3) 学術研究助成金の獲得に努めます。</p>
		(H30)	<p>◆ 施策 1-3) の継続・推進</p> <p>◆ 新規施策</p> <p>4) 平成27年度に提携した、内モンゴ財形学院大学との共同研究の成果を報告書の形でまとめます。</p>